
令和2年度 外国人材地域サポート促進事業 レポート

令和3年3月12日

キャリアバンク株式会社

CAREER BANK
キャリアバンク株式会社

目次

本事業の実施概要	1
1. 石狩地域	5
2. 渡島地域	10
3. 檜山地域	14
4. 後志地域	18
5. 空知地域・上川地域・胆振地域	24
6. 留萌地域	33
7. 宗谷地域	38
8. オホーツク地域	42
9. 日高地域	47
10. 十勝地域	52
11. 釧路地域	57
12. 根室地域	62
本事業のまとめ及び今後の展望	66

資料集

本事業の実施概要

1. 概要

本道では様々な業種において人手不足が深刻化する中、平成31年4月に新たな在留資格「特定技能」が創設されるなど、外国人材の受入れを希望する事業者の増加が見込まれている。

こうした中、外国人材を受入れる事業者には、職業生活以外にも、日常生活や社会生活に関わる支援が求められており、外国人材から選ばれる地域となるためには、受入事業者のみならず、地域が一体となって状況に応じたきめ細やかな支援を提供していく必要がある。

このため、道では令和元年度に道内4つのモデル地域において、コーディネーターを派遣し、地域の関係者による協議会の設置や外国人向け支援メニューの作成等の支援を行った。令和2年度においては、モデル地域での成果や課題を普及させ、外国人の受入環境の整備を促進するため、全道14カ所でワークショップを開催した。

開催地については、北海道庁や振興局また市町村の現状に合わせて選定した。当初、全14地域において対面で行う予定であったが、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、小樽市、岩見沢市、室蘭市、旭川市、そして網走市での開催は延期やオンラインへの切り替えが必要となった。

また、小樽市では姉妹都市交流も兼ねた開催となり、ロシア・ナホトカ市の大学生も参加してのワークショップとなった。なお、岩見沢市、室蘭市、旭川市はオンラインで合同開催で行った。

地域	開催地	テーマ	開催日時
① 石狩地域	千歳市	日本語教育	10月23日(金) 17:00~19:00
② 渡島地域	八雲町	イベント企画	11月11日(水) 17:00~19:00
③ 檜山地域	江差町	イベント企画	11月13日(金) 17:00~19:00
④ 後志地域	小樽市 (オンライン)	イベント企画	11月16日(月) 17:00~19:00
⑤ 空知地域	岩見沢市 (オンライン)	日本語教育	12月17日(木) 18:30~20:30
⑥ 上川地域	旭川市 (オンライン)	日本語教育	12月17日(木) 18:30~20:30
⑦ 留萌地域	天塩町	日本語教育	2月4日(木) 17:00~19:00
⑧ 宗谷地域	稚内市	イベント企画	10月28日(水) 17:00~19:00
⑨ ホック地域	網走市 (オンライン)	イベント企画	2月12日(金) 18:00~20:00
⑩ 胆振地域	室蘭市 (オンライン)	日本語教育	12月17日(木) 18:30~20:30
⑪ 日高地域	浦河町	イベント企画	11月6日(金) 17:00~19:00
⑫ 十勝地域	帯広市	イベント企画	11月5日(金) 17:00~19:00
⑬ 釧路地域	釧路市	イベント企画	11月4日(金) 17:00~19:00
⑭ 根室地域	中標津町	イベント企画	1月20日(水) 18:30~20:30

2. 内容

内容は、セミナーとワークショップの2部構成で行った。

また、ワークショップテーマについて、前年度のモデル地域のアンケート結果より、各地域の関心度が高かった「日本語教育」と「イベント企画」のどちらかのテーマを地域の要望に合わせて選択して行った。

(1) 事例紹介セミナー (30分)【日本語教育バージョン、イベント企画バージョン共通】

前年度に同事業で支援した4地域（恵庭市、遠別町、紋別市、根室市）の多文化共生支援事例を紹介。（講師：キャリアバンク株式会社）



(2) ワークショップ (1時間 30分)

【日本語教育バージョン】

① ミニセミナー「地域における日本語教育とは」(15分)

(講師：キャリアバンク株式会社)

地域における日本語教育を始めるために必要な以下のポイントについて説明

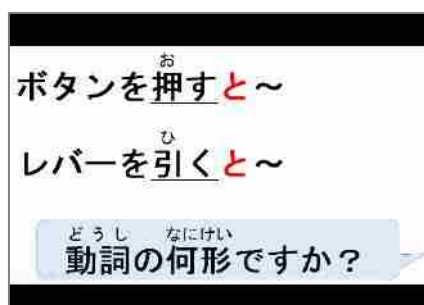
- ・地域における在住外国人の在留資格を把握する
- ・在留資格ごとの一般的な日本語レベルを把握する
- ・在住外国人の日本語学習の目的を把握する

② 日本語授業の実演 (15分) (講師：札幌ランゲージセンター 三宮 弘樹 氏)

日本語教室の講師より、実際の授業を参加者に見せて、生徒として体験してもらった。

授業内容は、道案内に必要な言い回しとしての「～すると・・・」という使い方をいろいろなパターンで練習。外国人だけではなく日本人も一生徒として当て問題に答えてもらった。

○スライド例



③アイスブレイク (20分)

より和やかな雰囲気での討議できるように、地図を使った道案内ゲームをグループごとに行った。

④グループ討論 (20分)

テーマを与え、グループごとに討論。討論した内容を模造紙にまとめてもらう。

テーマ：理想の日本語教室とはどんな教室か。

それを実現するために、考えなければならないことは何でしょうか。

⑤グループ発表 (15分)

模造紙を元に各グループより発表を行う。

【イベント企画バージョン】

①ミニセミナー「多文化共生イベント企画について」(20分)

地域での多文化共生イベントを開催する前に知るべき以下のポイントについて説明

- ・地域に在住する外国人について把握する
- ・海外のイベント時期を把握する
- ・異文化のタブーを把握する

②アイスブレイク (30分)

より和やかな雰囲気での討議できるように、異文化をテーマにしたクイズ大会を行った。

グループごとに答えを考えて全体で答え合わせをする。

④グループ討論 (20分)

テーマを与え、グループごとに討論。討論した内容を模造紙にまとめてもらう。

テーマ：外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベントを企画する

⑤グループ発表 (15分)

模造紙を元に各グループより発表を行う。



1. 石狩地域

1) 地域概況

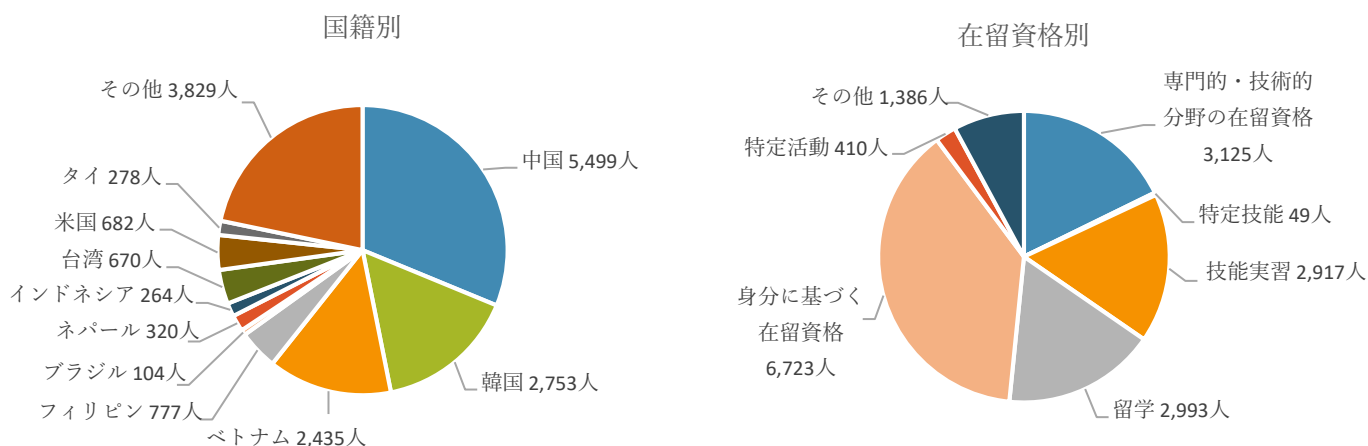
○地域の概要

総人口	2,375,449人 (H27 国勢調査)
地域構成	6市1町1村
外国人数	17,611 (2020年6月末時点)
主な国籍	中国、韓国、ベトナム、 フィリピン
主な在留資格	留学、技能実習、技術・人文知識・ 国際業務、特別定住者



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計 (2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	台湾	米国	タイ	その他
石狩地域総数	17,611人	5,499人	2,753人	2,435人	777人	104人	320人	264人	670人	682人	278人	3,829人
札幌市	14,613人	4,884人	2,419人	1,654人	527人	76人	255人	196人	560人	604人	238人	3,200人
恵庭市	481人	102人	40人	120人	122人	3人	26人	9人	20人	5人	3人	31人
石狩郡当別町	134人	7人	22人	26人	6人	-	12人	1人	18人	2人	1人	39人
江別市	719人	194人	72人	185人	14人	10人	9人	11人	12人	28人	5人	179人
北広島市	384人	91人	21人	81人	8人	6人	9人	4人	6人	11人	5人	142人
石狩郡新篠津村	8人	2人	1人	4人	-	-	-	-	-	-	-	1人
千歳市	809人	178人	158人	95人	84人	6人	9人	27人	51人	28人	24人	149人
石狩市	463人	41人	20人	270人	16人	3人	-	16人	3人	4人	2人	88人

法務省「在留外国人統計 (2020年6月末)」(下記同)

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
石狩地域総数	17,603人	3,125人	49人	2,917人	2,993人	6,723人	410人	1,386人
札幌市	14,613人	2,663人	13人	1,810人	2,756人	5,868人	326人	1,177人
江別市	719人	96人	10人	212人	98人	223人	18人	62人
千歳市	809人	222人	-	199人	4人	315人	13人	56人
恵庭市	481人	75人	3人	219人	40人	115人	9人	20人
北広島市	384人	33人	18人	141人	44人	97人	6人	45人
石狩市	463人	26人	-	316人	-	73人	37人	11人
石狩郡当別町	134人	10人	5人	20人	51人	32人	1人	15人

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりません。

- ・石狩地域は道内で外国人人口の割合が最も高い地域であり、国籍も在留資格も多様化している。特に札幌市では教育機関や企業が多く、定住している外国人や留学生、高度人材が集中している。
- ・札幌市には、札幌国際プラザや北海道外国人相談センターが設置されており、外国人への相談対応や生活支援が充実している。
- ・昨年度、恵庭市が率先して北海道「外国人材地域サポート（モデル地域支援）促進事業」の一地域となり、多文化共生連絡協議会を設立した。また本年度より文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」を活用し、日本語教室の立ち上げに取り組んでいる。
- ・本事業の開催地となった千歳市は、石狩管内では札幌市に次いで外国人の人数が多い自治体であり、国際空港である新千歳空港が市内にあるため、高度人材の割合が高いのが特徴である。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	令和2年10月23日（金）17:00～19:00
会場	千歳商工会議所 大会議室
参加人数	43名（外国人8名、日本人35名）
テーマ	日本語教育

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所 属	人 数
1	苫小牧市	2名
2	ボランティア通訳クラブ	7名
3	恵庭市	4名
4	製造業系企業	1名
5	千歳市	9名
6	北海道大学	3名
7	中学校教諭	1名
8	町内会	3名
9	北広島市	2名
10	日本語ボランティア	1名
11	建設系企業	10名（うち外国人8名）
	合 計	43名

○グループ討論の結果「理想の日本語教室とは」

- ・日本人の友達ができ、楽しい授業が受けられるような日本語教室。
- ・誰でも気軽に足を運べるような場所で日曜日などの休みに開催。
- ・色々なレベルを学ぶことができ、楽しくて飽きない日本語教室。
- ・日本語だけではなく文化や習慣、英語も勉強できる教室。
- ・出身国の文化を自分たちが先生になって話せるような、生徒達の主体性を活かした教室。
- ・もっと外国人が身近に住んでいるのだということを市役所がどんどん発信していくべき。
- ・日本語教室を開設するには市からの財源が必要。
- ・地域の日本人向けの日本語のボランティア養成講座があれば、教えられる人が増える。

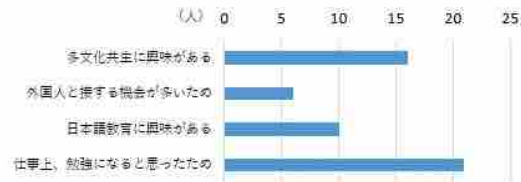
3) 結果

○アンケート（日本人参加者）

（回収 31 名/36 名）

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	16
2 外国人と接する機会が多いため	6
3 日本語教育に興味がある	10
4 仕事上、勉強になると思ったため	21
5 その他	0



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか（1つのみ選択可）。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	28
2 イメージできなかった	1
合計	29

※未回答2名



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・お互いを知ること、知り合える場を作ること
- ・自治体がリーダーとなり、アイデアを市民と考え身近に交流できる機会を増やす必要がある。
- ・日本人と外国人が交流できる機会がもっと必要かと思います。
- ・地域での認知度を高める。日本語教室の開設や交流イベントなどを行う
- ・このようなワークショップをたくさん開催する。
- ・地域の皆の協力や理解と外国人がたくさん住んでいるという事態把握。
- ・より外国人が身近な存在であると思えるように異文化交流会や勉強会などを開催し、少しでも興味をもてるような取り組みを行うことが必要と思う。
- ・情報発信（多言語化、生活情報、観光情報共に）
- ・地域に住んでいる外国人が求める日本語教育、ニーズを知ること。国籍に関わりなく関心度を上げることが大切だと思いました。
- ・「異文化を受け入れる」という意識を双方に持つことが必要。
- ・「共生」するために大前提となる「平等」、「対等」な関係をつくる取り組み、交流よりも外国人が日本で暮らす上で基本的な権利が侵害されていないか、チェックする取組が必要だと思う。
- ・日本人側の意識改革（「よそ者」扱いしてしまいがち。）
- ・役所側の支援が必須だと改めて感じました。具体的な内容はまだ見えませんが、日本語教室は必要なのではと改めて思いました。
- ・市内在住外国人が持っている不安や課題を把握することが必要である。
- ・関心を持ってハードルを下げる(身近なものにとらえる)ことで、仲間を増やすことが重要なことだと感じました。
- ・外国人を異質と感じるのではなく、身近な存在と思えるような取組が必要だと感じました。
- ・日本語教師の養成や、在住外国人への理解などが必要だと思います。
- ・地域の人が外国人の存在をもっとよく知ることが必要だと思いました。

《原文通り記載》

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・とても貴重な経験になりました。またこのような機会があれば、参加したいと思えます。
- ・私達の身近でたくさんの外国人が動いてくれていることを知ることができました。もっと地元と外国人の壁がなくなれば良いと思いました。とても勉強になりました。ありがとうございました。
- ・多文化共生に関するセミナーに初めて参加したので、全ての情報が新鮮で大変勉強になりました。ベトナムの技能実習生と実際に会話できたことが大変貴重でした。ありがとうございました。
- ・吉小牧市でも更に日本語教室の充実を計って行きたいところで、大変参考になりました。
- ・日本語授業の実演では、これまで見えなかったものが見えてきた気がします。貴重な機会をありがとうございました。
- ・このようなセミナーを通じて日本人の相互理解が進むことが望ましいと考えます。
- ・日頃、外国人の方がどのような環境にあるのかわからなかったのが、大変勉強になりました。
- ・日本語学校の実際の講義を初めて体験できたことは貴重な経験となりました。
- ・今回のワークショップはきづきが多くなるものでありましたが、今後もすこしずつでも進めていきたいと思えます。
- ・とても楽しく時間が過ぎるのがあっという間でした。
- ・とても良い機会を作ってくださいました。身近に結構いらっしゃるんだという事がわかりました。

《原文通り記載》

○アンケート（外国人参加者）

（回収 8 名/8 名）

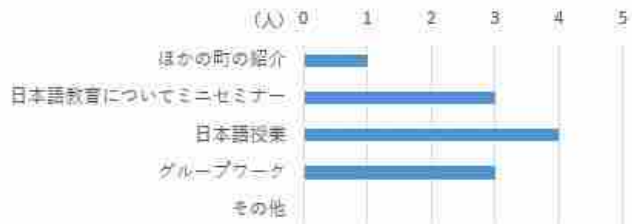
問1 ワークショップに参加した理由を教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	1
2 日本人と交流したいから	5
3 仕事で使えると思ったから	1
4 会社の人に誘われたから	2
5 その他	0



問2 ワークショップでよかったところを教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 ほかの町の紹介	1
2 日本語教育についてミニセミナー	3
3 日本語授業	4
4 グループワーク	3
5 その他	0



問3 今、住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

・にほんごをもっとまなびたい

《原文通り記載》

今回のワークショップでは、4つの地方自治体の職員や事業所、教育機関、市民ボランティア団体、外国人住民等の幅広い方が参加し、多文化共生への関心度の高さを感じた。参加者がそれぞれの立場で多文化共生や日本語教育について考え、活発な意見交換を行うことができた。また外国人と初めて会話する方が多く、「やさしい日本語」を活かした外国人とのコミュニケーションの取り方や外国人のサポーター役を体験することができる良い機会となった。最初のアイスブレイクでは、「やさしい日本語」の使い方でも苦戦している場面もみられたが、段々とやさしい言葉で話すことに慣れ、ジェスチャーや絵を使うなど、各グループが様々な工夫をしながら外国人とのコミュニケーションが取れるようになっていた。グループワークの中で日本人の参加者が外国人に対して日本での生活や母国等について色々な質問をしている姿がみられ、外国人との交流に対する積極性が感じられた。

グループ討議では、地域日本語教室を開設するためには、身近に外国人がいることをもっと発信することや、日本語教師の養成、財源の確保等が必要であるという意見が発表され、参加者一人一人が具体的な取り組みについて考えることができたのが今回のワークショップの一つの成果だと言える。

2. 渡島地域

1) 地域概況

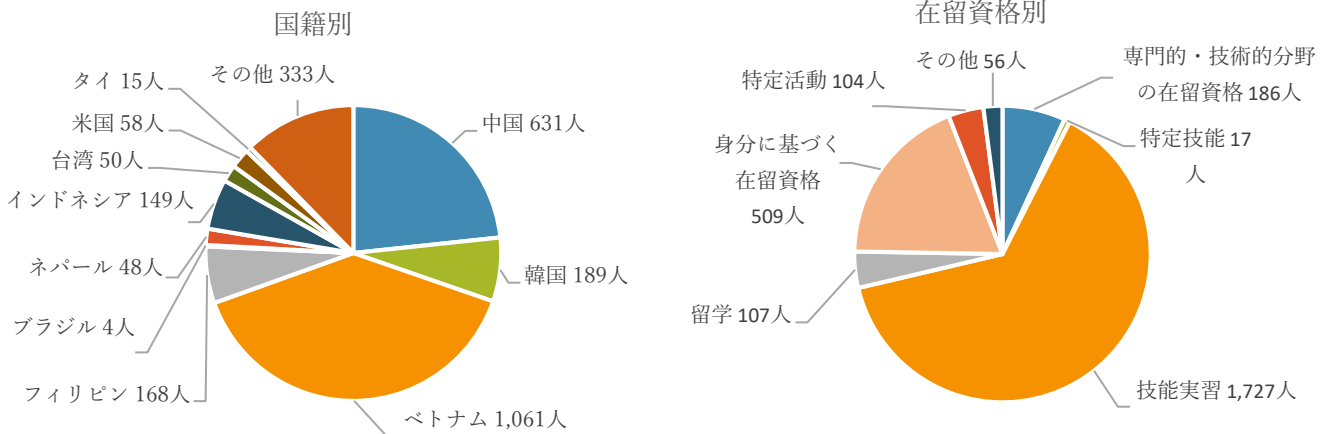
○地域の概要

総人口	427,807人(H22国勢調査)
地域構成	2市9町
外国人数	2,706人(2020年6月末時点)
主な国籍	ベトナム、中国
主な在留資格	技能実習、特別定住者、留学、技術・人文知識・国際業務



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	台湾	米国	タイ	その他
渡島地域総数	2,706人	631人	189人	1,061人	168人	4人	48人	149人	50人	58人	15人	333人
函館市	1,175人	230人	147人	376人	71人	2人	41人	37人	40人	31人	9人	191人
北斗市	316人	95人	19人	148人	33人	-	-	1人	3人	5人	-	12人
上磯郡知内町	66人	6人	-	58人	-	-	-	-	-	1人	-	1人
上磯郡木古内町	23人	-	2人	16人	2人	-	-	-	-	1人	-	2人
亀田郡七飯町	114人	16人	10人	13人	56人	-	-	-	2人	4人	-	13人
茅部郡鹿部町	116人	56人	-	12人	-	-	-	4人	-	3人	3人	38人
茅部郡森町	338人	76人	1人	208人	1人	-	-	1人	-	4人	-	47人
二世郡八雲町	278人	83人	6人	89人	1人	2人	7人	60人	3人	2人	-	25人
山越郡長万部町	198人	67人	1人	87人	-	-	-	37人	1人	1人	1人	3人
松前郡松前町	46人	1人	1人	27人	3人	-	-	9人	-	4人	1人	-
松前郡福島町	36人	1人	2人	27人	1人	-	-	-	1人	2人	1人	1人

法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」(下記同)

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
渡島地域総数	2,706人	186人	17人	1,727人	107人	509人	104人	56人
函館市	1,175人	136人	4人	453人	105人	393人	50人	34人
北斗市	316人	16人	-	254人	2人	34人	2人	8人
上磯郡知内町	66人	3人	-	35人	-	7人	-	1人
上磯郡木古内町	23人	2人	-	27人	-	7人	-	-
亀田郡七飯町	114人	2人	-	63人	-	1人	-	-
茅部郡鹿部町	116人	1人	-	16人	-	4人	2人	-
茅部郡森町	338人	7人	-	83人	-	21人	2人	1人
二海郡八雲町	278人	1人	-	111人	-	4人	-	0人
山越郡長万部町	198人	8人	2人	307人	-	13人	3人	5人
松前郡松前町	46人	8人	9人	217人	-	20人	17人	7人
松前郡福島町	36人	2人	2人	161人	-	5人	28人	-

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・国籍別では、ベトナム人の割合が最も高く約39%を占めている。ワークショップの開催地となった八雲町では、インドネシア人の比率が高く、主にホタテ養殖分野で活躍している。
- ・在留資格別では、「技能実習」が全体の64%を占めており、特に知内町(95%)、鹿部町(96%)、森町(91%)に住む外国人のほとんどが技能実習生である。
- ・函館市にある北海道国際交流センターでは、留学生向け国際交流の集いや「日本語日本文化講座セミナー」を開催したり、外国人向け日本語教室や函館市外国人生活相談窓口も開設している。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	11月11日(水) 17:00~19:00
会場	はびあ八雲 2階 会議室
参加人数	10名(外国人1名、日本人9名)
テーマ	イベント企画

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所 属	人 数
1	水産加工系企業	1名
2	八雲町	2名
3	北海道渡島総合振興局	3名
4	一般参加者	4名（うち外国人1名）
	合 計	10名

○グループ討論の結果「外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベント企画を考えよう」

- ・地元の祭りをもっとグローバルに！（夏祭りで各国料理を出店、各国チーム対決の相撲大会 等）
- ・お祭りや運動会、既存のイベントに外国人と日本人を呼ぶ（旅行券等、魅力的な景品があると集客しやすい）
- ・外国人主催の食のイベント「I♡夜市 in 八雲」（屋台形式で郷土料理を外国人にふるまう）

3) 結果

○アンケート（日本人参加者）

（回収9名/9名）

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	4
2 外国人と接する機会が多いため	1
3 外国人との交流に興味がある	3
4 仕事上、勉強になると思ったため	6
5 その他	0



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか？（1つのみ選択可）

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	9
2 イメージできなかった	0



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・互いの理解を深める地域イベント
- ・外国人側のニーズをもっと詳細に把握し分析、多文化共生や地域への人材誘致につながる取組。
- ・外国人が良い環境、よい気持ちで滞在してもらえらる様に受け入れる日本人への環境づくりを学べる機会を設ける必要があると感じます。
- ・地域での継続的な活動。（勉強会etc）
- ・地元には風土、文化があり、その様なリソースを効果的に活用すること。「違い」と「同じ人間」とが両立する思考を導く教育。
- ・日本人が地域に暮らす外国人について知ること（どの企業にどれくらいの方が働いている等）
- ・まだみんなにきょうみをもらってほしい。
- ・交流の場をひろげる。

《原文通り記載》

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・とてもよかったです。
- ・セミナーを聴講できず残念でしたが、グループワークでは日本人、外国人どちらもたのしめるイベントを企画する難しさを痛感しました。
- ・この様な企画は面白いので、今後も行って頂くと良いと思います。
- ・勉強になった。

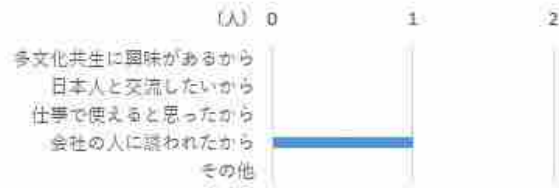
《原文通り記載》

○アンケート（外国人参加者）

（回収 1 名/1 名）

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	0
2 日本人と交流したいから	0
3 仕事で使えると思ったから	0
4 会社の人に誘われたから	1
5 その他	0



問2 どんなイベントがあったら参加したいと思いますか（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 日本語を勉強できるイベント	0
2 日本の文化について勉強できるイベント	1
3 スポーツイベント	0
4 日本人と交流できるイベント	0
5 自分の国の文化を教えるイベント	0
6 その他	0



今回のワークショップは、新型コロナウイルス感染症再拡大の影響により、少人数での開催となったが、小規模なイベントだからこそ参加者同士で打ち解けて交流し合うことができた様子が見えられた。役場の担当者は、実際に外国人を受入れている企業担当者とグループワークとして話し合いをすることによって、外国人がどのような環境で活躍し生活をしているか、受入れ側がどのようなことで苦労しているか等、「生の声」を聞くことができたようである。アンケートでも「外国人が良い環境で、良い気持ちで滞在してもらえる様に、受入れる日本人への環境づくりについて学べる機会を設ける必要があると感じた」というコメントがあるように、多文化共生や外国人への支援を考える上では、企業等の受入れ側との連携が必要不可欠だと考えられる。

一方で、企業担当者からは、「今いる外国人社員はあまり地域イベントに参加したがない。もっと交流をするためには、外国人にとって魅力的な内容にする必要がある。」という意見があり、そもそも外国人が何に対して興味を持つかを把握することが大事であることが分かった。

また、日本人との交流を促進するためには、新しいイベントを企画するだけではなく、日本人住民が集まる既存の地域イベントに外国人に参加してもらうことも方法の一つである。

3. 檜山地域

1) 地域概況

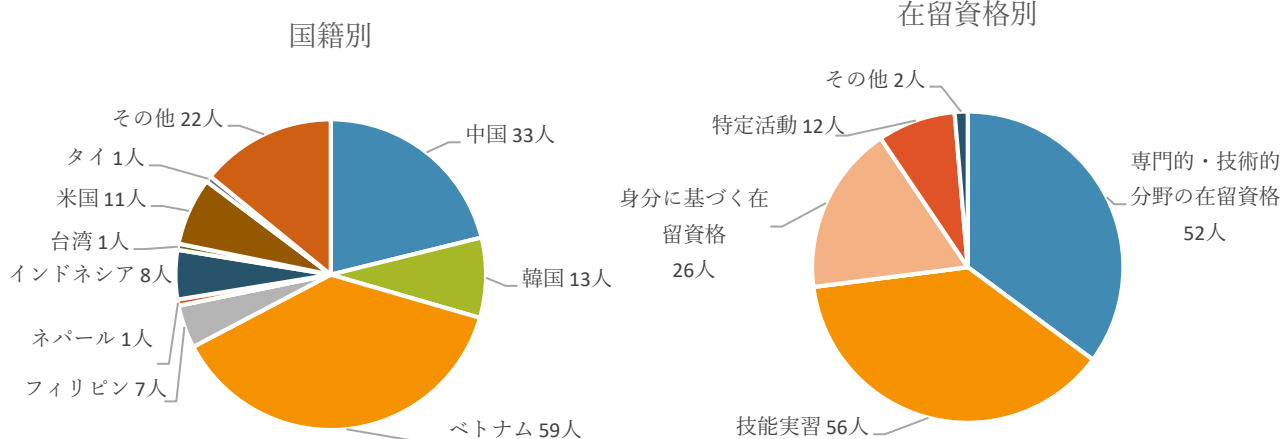
○地域の概要

総人口	37,870人（平成31年1月現在）
地域構成	7町
外国人数	156人（2020年6月末時点）
主な国籍	ベトナム、中国
主な在留資格	技能実習、技術・人文知識・国際業務、医療



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	台湾	米国	タイ	その他
檜山地域総数	156人	33人	13人	59人	7人	-	1人	8人	1人	11人	1人	22人
檜山郡江差町	19人	2人	2人	3人	5人	-	-	4人	-	1人	-	2人
檜山郡上ノ国町	40人	4人	2人	26人	-	-	-	-	-	2人	-	6人
檜山郡厚沢部町	32人	1人	6人	11人	1人	-	1人	-	-	1人	-	11人
爾志郡乙部町	16人	-	-	15人	-	-	-	-	-	1人	-	-
奥尻郡奥尻町	5人	-	2人	-	-	-	-	-	-	2人	-	1人
瀬棚郡今金町	3人	1人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2人
久遠郡せたな町	41人	25人	1人	4人	1人	-	-	4人	1人	4人	1人	-

法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」（下記同）

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
檜山地域総数	148人	52人	-	56人	-	26人	12人	2人
檜山郡江差町	19人	1人	-	10人	-	8人	-	-
檜山郡上ノ国町	40人	21人	-	14人	-	2人	3人	-
檜山郡厚沢部町	32人	3人	-	11人	-	10人	8人	-
爾志郡乙部町	16人	1人	-	15人	-	-	-	-
久遠郡せたな町	41人	26人	-	6人	-	6人	1人	2人

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりません。

- ・ 檜山地域は7町から構成されており、14地域の中では面積が最も小さい。
- ・ 在住外国人の人数は156人となっており、他地域と比較し外国人の受け入れがまだ少ない。
- ・ 国籍別では、ベトナム人（59人）と中国人（33人）が最も多く、全体の60%近く占めている。
- ・ 在留資格別で特徴的なのは、専門的・技術的分野の外国人の比率（35%）が高く、技能実習に次いで2番目となっていることである。
- ・ 檜山地域は、外国人の人数がまだ少ないが、檜山地域は高齢化率41.1%で全道平均（31.1%）を大きく上回っているため、今後外国人労働者が増えていくと予想される。（平成31年1月現在、檜山振興局ホームページより参照）

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	11月13日（金）17:00～19:00
会場	江差町文化会館 小ホール
参加人数	8名（外国人1名、日本人7名）
テーマ	イベント企画

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所属	人数
1	江差町議会議員	1名
2	北海道檜山振興局	2名
3	江差町	2名
4	江差町教育委員会	1名（うち外国人1名）
5	土木系企業	1名
6	一般参加者	1名
	合計	8名

○グループ討論の結果「外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベント企画を考えよう」

- ・「World なべまつり」（世界料理の出店、歌やダンスの舞台発表、衣装披露、等）
- ・「和の文化に触れるリズムにのりやすい盆おどり」（自国の衣装や無料貸出の着物で参加し、花火、食の文化交流会）

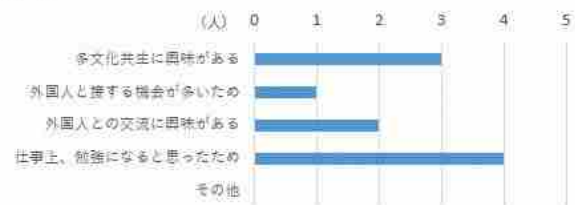
3) 結果

○アンケート（日本人参加者）

（回収9名/9名）

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	3
2 外国人と接する機会が多いため	1
3 外国人との交流に興味がある	2
4 仕事上、勉強になると思ったため	4
5 その他	0



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか？（1つのみ選択可）。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	7
2 イメージできなかった	0
合計	7



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

・人的交流
 ・外国人の方々と交流する機会を作ること（現状として、外国人を意識することが江差町では、ない）
 ・外国人と日本人の区別がない「心」。
 ・自治体と住民が一体となって外国人のことを理解し、一人一人の個性を受け入れていく必要があると思った。
 ・外国人が参加できるイベントを企画してあげること。悩みの相談にのってあげる体制があれば。

（原文通り記載）

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

・ありがとうございました。久々にわくわくしました。
 ・普段、一緒になることがあまりない方々と接することができたので、よかったです。
 ・大変参考になりました。
 ・参加が少ないのがさびしい。中、高校生の参加があってもよいのではないか。

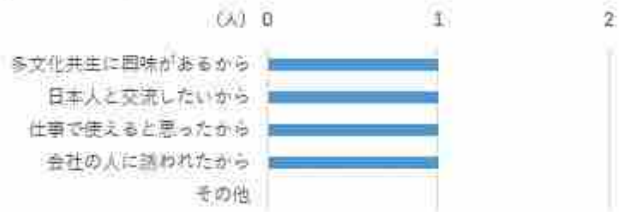
（原文通り記載）

○アンケート（外国人参加者）

（回収 1 名/1 名）

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	1
2 日本人と交流したいから	1
3 仕事で使えると思ったから	1
4 会社の人に誘われたから	1
5 その他	0



問2 どんなイベントがあったら参加したいと思いますか。（複数選択可）

回答	人数(人)
1 日本語を勉強できるイベント	1
2 日本の文化について勉強できるイベント	1
3 スポーツイベント	0
4 日本人と交流できるイベント	1
5 自分の国の文化を教えるイベント	0
6 その他	0



問3 今住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

More events for foreigner. （原文通り記載）

今回のワークショップには、役場や受入企業の担当者、一般市民ら計7名、うち英語教師の外国人が1名参加した。グループワークでは、外国人と普段から職場やボランティアで接するメンバーが外国人の特徴や関心のあることについての情報を積極的に共有し合い、終始穏やかな雰囲気活発な話し合いが行われていた。外国人参加者からも、「日本人と交流ができてワクワクした」、「もっとこのような機会を増やしてほしい」とのコメントが出ており、ボランティアで近所の技能実習生と交流している一般市民の参加者も「個人的に着物を着せたり日本の文化について教えてあげたりすると、とても喜んでくれる」と話していた。

日本の多くの地域では、外国人の住民が急増して初めて多文化共生の課題に気付き対策を取り始めるが、外国人が増えた時点で受け入れ状況について正確に把握し、課題を整理するのは難しく時間がかかる場合が多い。そのため檜山地域は外国人が少ない今だからこそ外国人や受入企業の声を丁寧に聞き、外国人受入の環境づくりや支援体制の整備に取り組むのに最適なタイミングであるといえる。今から日本人住民と外国人との交流の機会を増やしたり、各関係者が課題を分析し対策を考え始められると、いざ外国人が急増した際にはスムーズな対応ができると考えられる。

4. 後志地域

1) 地域概況

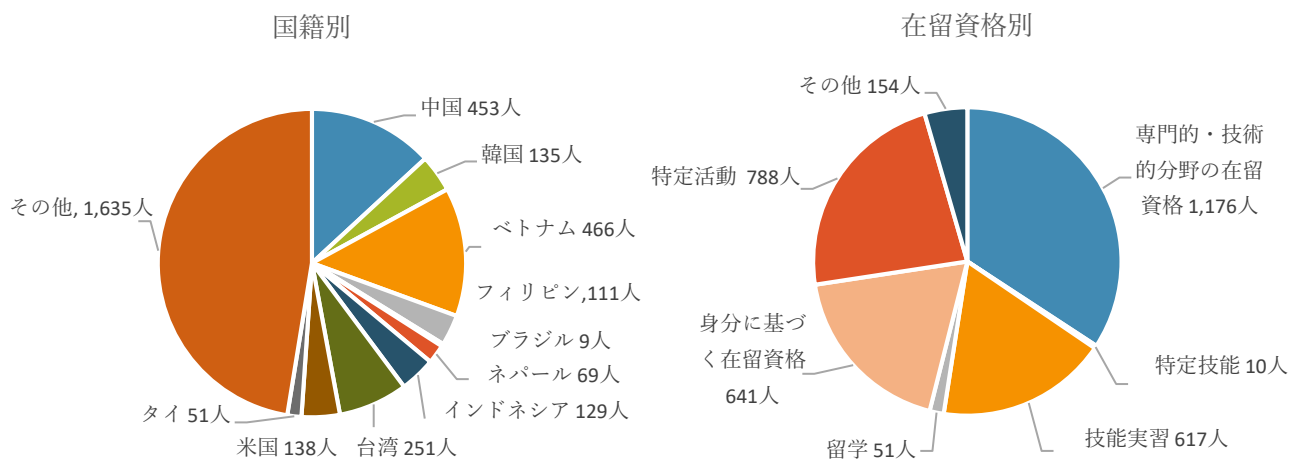
○地域の概要

総人口	215,522人（平成27年国勢調査）
地域構成	1市13町6村
外国人数	3,447人（2020年6月末時点）
主な国籍	ベトナム、中国、
主な在留資格	技術・人文知識・国際業務、特定活動、技能実習



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インド ネシア	台湾	米国	タイ	その他
後志地域総数	3,447人	453人	135人	466人	111人	9人	69人	129人	251人	138人	51人	1,635人
小樽市	710人	137人	77人	170人	14人	2人	11人	2人	17人	28人	17人	235人
島牧郡島牧村	1人	-	1人	-	-	-	-	-	-	-	-	-
寿都郡寿都町	55人	35人	1人	17人	1人	-	-	-	-	1人	-	-
寿都郡黒松内町	14人	-	1人	6人	1人	-	-	-	-	1人	-	5人
磯谷郡蘭越町	67人	5人	0人	21人	1人	-	1人	1人	7人	7人	-	24人
虻田郡ニセコ町	374人	36人	12人	4人	10人	2人	12人	30人	33人	31人	3人	201人
虻田郡真狩村	36人	2人	2人	7人	1人	-	-	13人	1人	3人	1人	6人
虻田郡留寿都村	166人	28人	4人	10人	-	1人	8人	21人	24人	-	2人	68人
虻田郡喜茂別町	67人	16人	-	13人	1人	-	-	9人	10人	2人	-	16人
虻田郡京極町	58人	41人	1人	-	7人	-	-	2人	2人	3人	-	2人
虻田郡倶知安町	1,430人	106人	20人	24人	50人	4人	28人	20人	132人	49人	12人	985人
岩内郡共和町	19人	2人	2人	9人	1人	-	1人	-	-	1人	-	3人
岩内郡岩内町	61人	1人	4人	31人	4人	-	1人	-	-	5人	1人	14人
古宇郡泊村	4人	-	-	3人	-	-	-	-	-	1人	-	-
古宇郡神恵内村	2人	-	-	-	-	-	-	1人	-	1人	-	-
積丹郡積丹町	3人	-	-	-	-	-	1人	-	-	1人	-	1人
古平郡古平町	53人	14人	-	32人	-	-	-	4人	-	-	-	3人
余市郡仁木町	60人	14人	1人	23人	7人	-	4人	-	1人	-	1人	9人
余市郡余市町	157人	13人	6人	96人	6人	-	-	20人	1人	2人	5人	8人
余市郡赤井川村	110人	3人	3人	-	7人	-	2人	6人	23人	2人	9人	55人

法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」（下記同）

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
後志地域総数	3,437人	1,176人	10人	617人	51人	641人	788人	154人
小樽市	710人	125人	3人	174人	48人	264人	37人	59人
寿都郡寿都町	55人	-	-	51人	-	4人	-	-
寿都郡黒松内町	14人	5人	-	6人	-	3人	-	-
磯谷郡蘭越町	67人	17人	4人	16人	-	19人	11人	-
虻田郡ニセコ町	374人	168人	-	1人	1人	92人	93人	19人
虻田郡真狩村	36人	3人	-	22人	-	10人	1人	-
虻田郡留寿都村	166人	81人	-	40人	1人	6人	33人	5人
虻田郡喜茂別町	67人	44人	-	15人	-	4人	4人	-
虻田郡京極町	58人	5人	-	41人	-	11人	-	1人
虻田郡倶知安町	1,430人	614人	-	6人	1人	177人	566人	66人
岩内郡共和町	19人	2人	-	9人	-	8人	-	-
岩内郡岩内町	61人	10人	-	36人	-	13人	2人	-
古平郡古平町	53人	1人	-	44人	-	2人	6人	-
余市郡仁木町	60人	17人	3人	30人	-	4人	5人	1人
余市郡余市町	157人	11人	-	126人	-	17人	3人	-
余市郡赤井川村	110人	73人	-	-	-	7人	27人	3人

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・後志地域の外国人は、世界的に有名なスキーリゾートのあるニセコエリアに集中している。中でも倶知安町は他の市町村と比較して在住外国人数が突出している。国籍としてはオーストラリア人が最も多く、在留資格でみると「専門的・技術的分野の在留資格」、および「特定活動」が多くみられる。
次いで小樽市も在住外国人が多くみられ、在留資格では「身分に基づく在留資格」の外国人が多い傾向にある。また小樽市には小樽商科大学があるため留学生も在住している。
また、スキー場を併設したリゾートホテルがある留寿都村にも在住外国人が多くみられる。
- ・ニセコエリアや小樽市には既にボランティア団体による日本語教室もあり、小樽ではボランティア団体 ONSA により、毎週水曜日午前 (10:00-11:30) に N2 を目指すという目標を掲げた日本語教室が行われている。主に留学生と家族滞在者が参加している。
- ・小樽市では、毎年秋頃に日本文化体験会を行っており過去 20 回以上開催している。毎回 20 名前後の外国人参加者がいるとのことで、一部市民の間では多文化共生が進んでいる。
- ・小樽市では今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で様々なイベントを中止しているため、ワークショップもオンラインでの開催を決定した。また同市よりこの機会に姉妹都市にも参加してもらい市民と交流させたいとの要望もあり、ロシアのナホトカ市の大学生も参加しての開催となった。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	令和 2 年 11 月 16 日 (月) 17:00~19:00	
会場	オンライン開催	
参加人数	40 名 (外国人 17 名、日本人 23 名)	
テーマ	イベント企画 ※小樽市の開催は姉妹都市交流を兼ねてロシア ナホトカ市の大学生が参加	
内容	小樽市側	ロシア ナホトカ市側
	<ul style="list-style-type: none"> ○ 事例紹介セミナー ○ ミニセミナー「多文化共生とは」 (講師：当社海外事業部 大前) 	<ul style="list-style-type: none"> ○ ワークショップの説明 ○ 小樽市の紹介、等 (講師：当社海外事業部 キム)
	<ul style="list-style-type: none"> ○ ナホトカ市の紹介 ○ アイスブレイク (多文化共生クイズ) ○ グループ討論 ○ グループ発表 	

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所 属	人 数
1	協同組合	1名
2	JICA 北海道	4名
3	小売系企業	1名
4	山形県国際交流協会	1名
5	小樽市	1名
6	北海道大学	1名
7	余市町	2名
8	江別市	1名（うち外国人1名）
9	小樽市議会議員	1名
10	小樽商科大学	4名
11	ONSA	9名（うち外国人4名）
12	一般参加者	2名
13	ウラジオストック国立経済・サービス総合大学 ナホトカ分校	10名（うち外国人10名）
14	ナホトカ市	2名（うち外国人2名）
	合 計	40名

○グループ討論の結果「外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベント企画を考えよう」

- ・「ここが変だよ！小樽市民」（小樽や外国の独自の文化を紹介するイベント）
- ・「みんなで食べよう世界の料理」（参加者の国の料理を食べ合うイベント）
- ・「潮おんどでみんなでおどり隊」（潮まつりに潮おんどを外国人参加者と練り歩くイベント）
- ・「オンラインクッキング和食」

（事前に後志の食材を参加者に送りそれを使ったやさしい日本語料理教室）

3) 結果

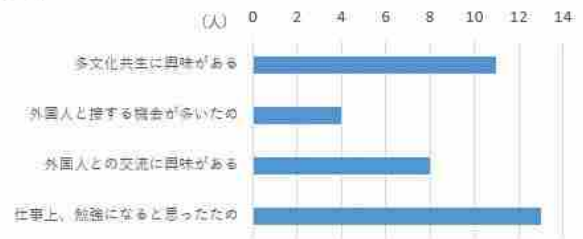
○アンケート（日本人参加者）

（回収 17 名/24 名）

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	11
2 外国人と接する機会が多いため	4
3 外国人との交流に興味がある	8
4 仕事上、勉強になると思ったため	13
5 その他	2

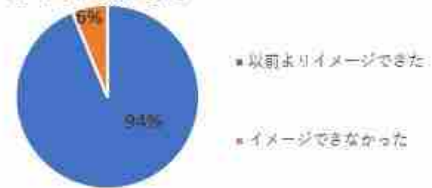
その他：・キャリアバンクさんに紹介されて
・キャリアバンクさんに誘われた



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか？（1つのみ選択可）。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	15
2 イメージできなかった	1
合計	16

※1名未回答



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・外国人の環境を広範囲で知ること。
- ・自治体の財政や人口規模によって取り組みに差がありますが、子供や若い世代は特に外国の人や文化に触れるべきだと思います。可能なら実際に会って交流できる場があるといいと思います。
- ・重要性の周知
- ・定期的に在住している外国人へアンケートを取り、市町村の取組みがどのように影響しているか（もしくは認知されているか）を調べる。
- ・外国人技能実習生を受け入れている企業の関係者をはじめ、広く市民に呼び掛けていくことが肝要かと思えます。
- ・小樽に暮らす「外国にルーツを持つ方」の生活ニーズの把握
- ・相互理解を深めること、それを一部の人間だけではなくそこで暮らす人が皆共通認識出来るためのグループワークやイベント
- ・外国人へのアンケートにより情報収集と多文化協議会の設立
- ・地域の外国人と知り合う機会がほしいです
- ・地域を巻き込んで行くこと。興味のない人にも知らしめること。
- ・今回のように、小樽市民と在留外国人が一堂に集まり、意見を出してもらおう。
- ・外国人が日本語を学ぶ場を増やす（場所、時間、資金援助等）

（原文通り記載）

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・楽しかったです。知らないことも知ることができました。
- ・大変勉強になりました、ありがとうございました。
- ・アンケートや協議会の設立についてぜひ情報をいただきたいです。
- ・思っていたよりも北海道で働く海外の人が多くと知りました。各地の取り組みをしれてよかったです。
- ・もう少し外国の人のお話を聞ければよかったですと感じました。
- ・もっと外国人が参加できる工夫があると良い。

（原文通り記載）

○アンケート（外国人参加者）

（回収 4 名/4 名）

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください。（複数選択可）。

回答		人数(人)
1	多文化共生に興味があるから	3
2	日本人と交流したいから	4
3	仕事で使えると思ったから	0
4	会社の人に誘われたから	0
5	その他	0



問2 どんなイベントがあったら参加したいと思いますか。（複数選択可）

回答		人数(人)
1	日本語を勉強できるイベント	3
2	日本の文化について勉強できるイベント	1
3	スポーツイベント	0
4	日本人と交流できるイベント	0
5	自分の国の文化を教えるイベント	1
6	その他	0



- 日本語を勉強できるイベント
- 日本の文化について勉強できるイベント
- スポーツイベント
- 日本人と交流できるイベント
- 自分の国の文化を教えるイベント
- その他

問3 今住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

気軽に参加できる交流会があればと思います。

今回はオンラインでの開催だったため、参加者は後志地域にとどまらず、札幌市や道外の山形県などからの参加もみられ、遠隔地との意見交換も可能となった。また、小樽市の姉妹都市であるロシアナホトカ市の大学生も参加し交流することができ、オンラインの利点を十分に活かせるワークショップとなった。参加者には、日本語教室のボランティア団体 ONSA の講師や生徒をはじめ、市役所職員、JICA や民間企業、小樽商科大学の大学生など幅広い層の参加があり、多文化共生について話し合った。参加者からは「思っていたよりも北海道で働く海外の人が多く知れた」「(多文化共生に向けて) 相互理解を深めることが必要だ」などの感想が出ていた。

管内の一部の地域では多文化共生への関心が高まるのはこれからという印象を受けたが、ニセコ地域では既に様々な取組を始めており共生への意識は高いと思われるため、意識の差が大きい地域であると言える。

5. 空知地域・上川地域・胆振地域

1) 地域概況

■空知地域

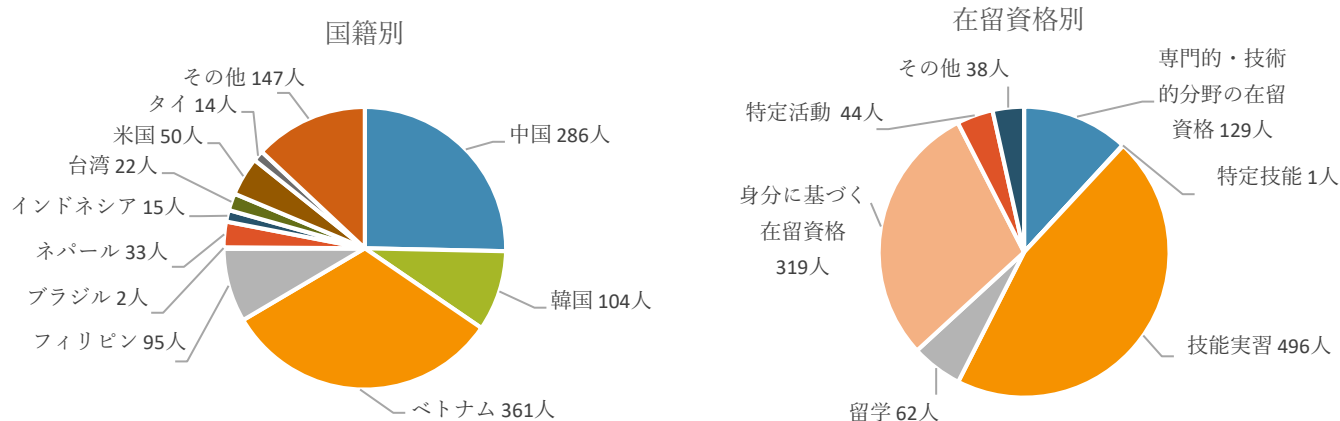
○地域の概要

総人口	308,336人(平成27年国勢調査)
地域構成	10市14町
外国人数	1,129人(2020年6月末時点)
主な国籍	ベトナム、中国
主な在留資格	技能実習、永住者



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インド ネシア	台湾	米国	タイ	その他
空知地域総数	1,129人	286人	104人	361人	95人	2人	33人	15人	22人	50人	14人	147人
夕張市	108人	76人	3人	12人	-	1人	-	1人	7人	1人	-	7人
岩見沢市	218人	36人	30人	59人	15人	1人	8人	8人	4人	17人	3人	37人
美瑛市	63人	12人	19人	3人	7人	-	3人	4人	1人	5人	1人	8人
芦別市	35人	9人	1人	14人	4人	-	-	-	-	-	1人	6人
赤平市	78人	16人	6人	33人	15人	-	-	-	-	2人	-	6人
三笠市	16人	1人	2人	5人	3人	-	-	-	-	1人	-	4人
滝川市	125人	5人	15人	48人	12人	-	9人	-	3人	10人	1人	22人
砂川市	34人	-	-	19人	2人	-	-	-	1人	1人	1人	10人
歌志内市	6人	-	1人	2人	1人	-	-	-	1人	-	-	1人
深川市	123人	63人	5人	16人	17人	-	5人	-	2人	2人	-	13人
空知郡南幌町	63人	35人	2人	17人	2人	-	-	2人	-	3人	1人	1人
空知郡奈井江町	30人	5人	6人	10人	3人	-	-	-	3人	-	1人	2人
空知郡上砂川町	16人	6人	-	8人	-	-	-	-	-	1人	-	1人
夕張郡由仁町	22人	1人	5人	12人	-	-	-	-	-	-	-	4人
夕張郡長沼町	33人	5人	2人	7人	8人	-	2人	-	-	2人	3人	4人
夕張郡栗山町	61人	10人	4人	27人	3人	-	6人	-	-	2人	-	9人
樺戸郡月形町	3人	1人	-	-	1人	-	-	-	-	-	-	1人
樺戸郡浦臼町	8人	1人	-	4人	-	-	-	-	-	-	-	3人
樺戸郡新十津川町	24人	3人	-	13人	1人	-	-	-	-	2人	1人	4人
雨竜郡妹背牛町	40人	-	1人	38人	-	-	-	-	-	-	-	1人
雨竜郡秩父別町	3人	-	-	-	-	-	-	-	-	1人	1人	1人
雨竜郡雨竜町	9人	1人	-	7人	-	-	-	-	-	-	-	1人
雨竜郡北竜町	5人	-	1人	3人	1人	-	-	-	-	-	-	-
雨竜郡沼田町	6人	-	1人	4人	-	-	-	-	-	-	-	1人

法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」（下記同）

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
空知地域総数	1,089人	129人	1人	496人	62人	319人	44人	38人
夕張市	108人	7人	-	74人	1人	7人	14人	5人
岩見沢市	218人	35人	-	82人	5人	86人	3人	7人
美瑛市	63人	6人	-	9人	-	44人	2人	2人
芦別市	35人	1人	-	18人	-	13人	3人	-
赤平市	78人	2人	-	54人	-	19人	3人	-
三笠市	16人	5人	-	4人	-	6人	1人	-
滝川市	125人	29人	1人	45人	1人	36人	1人	12人
砂川市	34人	4人	-	19人	-	11人	-	-
深川市	123人	8人	-	15人	54人	34人	8人	4人
空知郡南幌町	63人	1人	-	46人	-	10人	6人	-
空知郡奈井江町	30人	8人	-	10人	-	11人	-	1人
空知郡上砂川町	16人	1人	-	14人	-	1人	-	-
夕張郡由仁町	22人	2人	-	12人	-	8人	-	-
夕張郡長沼町	33人	2人	-	13人	-	16人	1人	1人
夕張郡栗山町	61人	10人	-	32人	1人	10人	2人	6人
樺戸郡新十津川町	24人	3人	-	16人	-	5人	-	-
雨竜郡妹背牛町	40人	5人	-	33人	-	2人	-	-

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・空知地域では、在住外国人は岩見沢市に最も多く、次いで滝川市、深川市が多い。在留資格では、「技能実習」が最も多く、ついで「身分に基づく在留資格」が多い。
- ・この地域では、市民単位で日本語教室や外国人との交流イベントが行われている。
- ・秩父別町では、「ちっつぶ町多文化共生プロジェクトチーム」が立ち上げられ、外国人との共生を考えるための町民参加のワークショップ“ちっつぶ 100 人サミット「ご近所さんは外国人？」”を開催。
- ・滝川市は JICA の農業系研修の受入れを長年行っている。

■上川地域

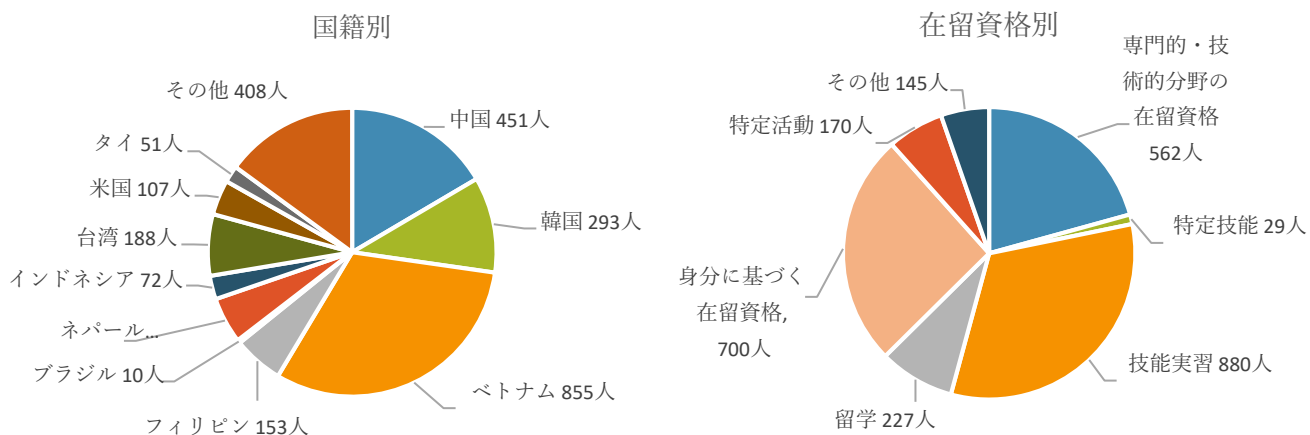
○地域の概要

総人口	49,5947 人 (H31.1 住民基本台帳調査)
地域構成	4 市 17 町 2 村
外国人人数	2,729 人 (2020 年 6 月末時点)
主な国籍	ベトナム、中国、韓国
主な在留資格	技能実習、技術・人文知識・国際業務、永住者、留学



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インド ネシア	台湾	米国	タイ	その他
上川地域総数	2,729人	451人	293人	855人	153人	10人	141人	72人	188人	107人	51人	408人
旭川市	1,249人	204人	195人	418人	88人	8人	76人	17人	21人	34人	12人	176人
士別市	82人	21人	7人	39人	2人	-	-	-	-	11人	-	2人
名寄市	77人	15人	8人	16人	4人	-	1人	-	1人	21人	-	11人
富良野市	272人	65人	19人	76人	5人	-	16人	1人	39人	8人	9人	34人
上川郡鷹栖町	2人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2人
上川郡東神楽町	40人	2人	3人	24人	-	-	-	-	-	5人	-	6人
上川郡当麻町	11人	2人	1人	5人	-	1人	-	-	-	-	-	2人
上川郡比布町	3人	-	1人	-	-	-	-	-	-	1人	1人	-
上川郡愛別町	39人	-	1人	33人	2人	-	-	-	-	1人	1人	1人
上川郡上川町	72人	18人	-	33人	3人	-	1人	5人	6人	-	2人	4人
上川郡東川町	301人	32人	10人	127人	4人	-	9人	24人	34人	7人	19人	35人
上川郡美瑛町	95人	23人	5人	43人	4人	-	-	1人	8人	3人	-	8人
空知郡上富良野町	60人	4人	3人	12人	21人	-	5人	1人	4人	2人	2人	6人
空知郡中富良野町	40人	12人	4人	10人	-	-	-	1人	1人	6人	-	6人
空知郡南富良野町	16人	1人	2人	-	-	-	7人	-	1人	1人	-	4人
勇払郡占冠村	295人	26人	31人	-	18人	1人	26人	22人	73人	3人	5人	90人
上川郡和寒町	20人	2人	2人	10人	-	-	-	-	-	1人	-	5人
上川郡剣淵町	1人	-	-	-	-	-	-	-	-	1人	-	-
上川郡下川町	22人	12人	-	7人	-	-	-	-	-	-	-	3人
中川郡美深町	22人	8人	-	2人	1人	-	-	-	-	1人	-	10人
中川郡音威子府村	2人	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	2人
中川郡中川町	6人	4人	1人	-	-	-	-	-	-	1人	-	-
雨竜郡幌加内町	2人	-	-	-	1人	-	-	-	-	-	-	1人

法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」（下記同）

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
上川地域総数	2,713人	562人	29人	880人	227人	700人	170人	145人
旭川市	1,249人	150人	9人	456人	70人	486人	15人	63人
士別市	82人	7人	7人	42人	-	13人	2人	11人
名寄市	77人	14人	-	14人	-	32人	1人	16人
富良野市	272人	71人	1人	111人	-	51人	23人	15人
上川郡東神楽町	40人	4人	-	25人	-	11人	-	-
上川郡当麻町	11人	2人	-	-	-	9人	-	-
上川郡愛別町	39人	2人	-	23人	-	3人	10人	1人
上川郡上川町	72人	29人	-	16人	-	4人	22人	1人
上川郡東川町	301人	47人	8人	51人	157人	20人	5人	13人
上川郡美瑛町	95人	15人	1人	53人	-	20人	6人	-
空知郡上富良野町	60人	11人	-	31人	-	15人	-	3人
空知郡中富良野町	40人	1人	1人	18人	-	17人	-	3人
空知郡南富良野町	16人	5人	1人	3人	-	4人	-	3人
勇払郡占冠村	295人	198人	-	1人	-	6人	75人	15人
上川郡和寒町	20人	2人	-	13人	-	2人	2人	1人
上川郡下川町	22人	1人	1人	15人	-	4人	1人	-
中川郡美深町	22人	3人	-	8人	-	3人	8人	-

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・上川地域に在住する外国人は 2,729 人で、道内では石狩地域に次いで 2 番目に多い。
- ・国籍別では、ベトナム人が 885 人（31%）で、中国人 451 人の約 2 倍となっている。
- ・在留資格別では、「技能実習」が 880 人（32%）で最も多く、「身分に基づく在留資格」が 700 人（27%）、「専門的・技術的分野の在留資格」が 562 人（21%）となっている。
- ・東川町に日本語学校が 2 校設営されており、この地域の留学生の大半がここで日本語を勉強している。
- ・総人口 1,314 人（2021 年 1 月末住民基本台帳登録数）の占冠村では、外国人人口の割合が高く、特に「専門的・技術的分野の在留資格」の外国人が多い。村内にある大型リゾートホテルの関係者が大半を占めているとみられる。
- ・多文化共生事業への取り組みでは、旭川市国際交流センターでは、外国人向けの日本語教室や書道、太鼓、そば打ち等の日本文化体験を実施している。さらに、東川町では、「ベトナムテト in Higashikawa」等のイベントが開催され、外国人と地域住民との交流を図っている。

■胆振地域

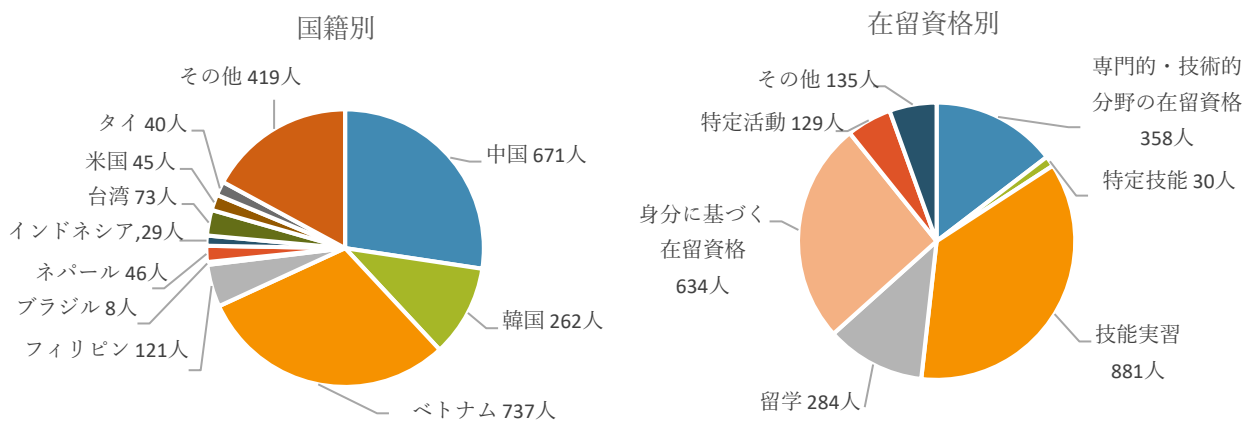
○地域の概要

総人口	416,289 人（H22 国勢調査）
地域構成	4 市 7 町
外国人数	2,451 人（2020 年 6 月末時点）
主な国籍	ベトナム、中国
主な在留資格	技能実習、留学、永住者、技術・人文知識・国際業務



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計（2020 年 6 月末）」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	台湾	米国	タイ	その他
胆振地域総数	2,451人	671人	262人	737人	121人	8人	46人	29人	73人	45人	40人	419人
室蘭市	441人	156人	54人	76人	14人	1人	19人	7人	3人	10人	11人	90人
苫小牧市	834人	150人	113人	286人	57人	-	16人	9人	5人	8人	13人	177人
登別市	205人	60人	43人	36人	3人	-	8人	1人	18人	7人	4人	25人
伊達市	228人	61人	6人	122人	4人	-	3人	1人	1人	6人	7人	17人
虻田郡豊浦町	72人	8人	5人	30人	2人	-	-	4人	7人	3人	-	13人
有珠郡壮瞥町	59人	25人	9人	4人	1人	-	-	1人	7人	1人	-	11人
白老郡白老町	212人	64人	18人	103人	7人	1人	-	3人	1人	3人	3人	9人
勇払郡厚真町	43人	2人	2人	21人	10人	6人	-	-	1人	-	-	1人
虻田郡洞爺湖町	124人	35人	3人	34人	6人	-	-	3人	23人	4人	2人	14人
勇払郡安平町	85人	33人	4人	-	8人	-	-	-	1人	1人	-	38人
勇払郡むかわ町	148人	77人	5人	25人	9人	-	-	-	6人	2人	-	24人

法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」（下記同）

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
胆振地域総数	2,451人	358人	30人	881人	284人	634人	129人	135人
室蘭市	441人	28人	-	33人	212人	115人	3人	50人
苫小牧市	834人	108人	2人	320人	53人	269人	29人	53人
登別市	205人	56人	-	36人	17人	69人	18人	9人
伊達市	228人	25人	5人	136人	-	36人	20人	6人
虻田郡豊浦町	72人	12人	9人	26人	-	17人	2人	6人
有珠郡壮瞥町	59人	17人	-	17人	-	5人	17人	3人
白老郡白老町	212人	16人	1人	144人	1人	42人	4人	4人
勇払郡厚真町	43人	10人	-	21人	-	12人	-	-
虻田郡洞爺湖町	124人	44人	-	30人	-	21人	26人	3人
勇払郡安平町	85人	24人	-	32人	1人	27人	1人	-
勇払郡むかわ町	148人	18人	13人	86人	-	21人	9人	1人

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・胆振地域は、道内では石狩地域と渡島地域に次いで総人口が3番目に大きいですが、外国人住民の比率が低い。
- ・国籍別では、ベトナム人が737人で最も多く、30%を占めている。
- ・在留資格別では、「技能実習」が圧倒的に多く、全体の36%となっている。
- ・室蘭工業大学や苫小牧駒澤大学等の教育機関があるため、室蘭と苫小牧では留学生の数が多。
- ・室蘭市では、室蘭市国際交流推進協議会が設立され、留学生ウェルカム・パーティーや、日本語サロン、日本の文化体験イベント等、国際交流や多文化交流に向けた事業を数多く実施している。
- ・登別市では、外国人サポートワンストップ窓口を設置し、英語や中国語でも対応。
- ・苫小牧市の国際交流サロンでは日本語教室を開設している。

2) 実施内容（空知・上川・胆振、合同開催）

○実施概要

実施日時	12月17日（木）18:30～20:30
会場	オンライン開催
参加人数	34名（外国人8名、日本人26名）
テーマ	日本語教育

○参加者

No.	所 属	人 数
1	農業系企業	1名
2	北海道開発協会	1名
3	学校法人	1名
4	JICA 北海道	3名
5	北海道大学	2名
6	滝川国際交流協会	3名
7	北海道留萌振興局	2名
8	室蘭市	3名
9	美唄市	1名（うち外国人1名）
10	旭川市	1名
11	札幌国際プラザ	3名
12	IT系企業	1名（うち外国人1名）
13	建設系企業	1名
14	日本語学校生	5名（うち外国人5名）
15	一般参加者	6名（うち外国人1名）
	合 計	34名

○グループ討論の結果「理想の日本語教室とは」

- ・実践的な行動として、みんな体験しながら、日本語をお互いに使う教室
- ・交流型の教室があれば、理想的なコミュニケーションをすることができます。
- ・定期的なイベントをすれば、顔と顔を合わせるきっかけとなり交流機会がもっと増えると思います。
- ・体験することが大切。

日本語学校に通っていると、異文化があまり感じにくい。言葉を学ぶだけでなく、異文化を実践することも大切だと思います。

3) 結果

○アンケート (日本人参加者)

(回収 21 名/26 名)

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください (複数選択可)。

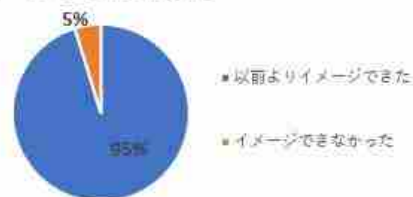
回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	12
2 外国人と接する機会が多いため	12
3 日本語教育に興味がある	9
4 仕事上、勉強になると思ったため	13
5 その他	4

その他:
 ・技能実習生受入検討中のため
 ・知人からのお誘いで
 ・大学院の研究テーマに関連するため



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか? (1つのみ選択可)。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	20
2 イメージできなかった	1
合計	21



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・地域において、多文化共生に向けた取組みを推進していくリーダー(キーマン)の養成(育成)が必要だと感じます。
- ・地域全体で情報共有できる場を作る、気軽に話せる場を設ける等の取組みが必要だと感じます。
- ・より草の根的な活動。日本語学習支援がランディアの育成。自治体、国際交流協会、企業などの協力。
- ・もっと一般の方にこのようなセミナーに参加して、知ってもらえるような宣伝が必要かと思えます。
- ・日本語の壁はもろん解決しないといけないと思うのですが、日本にいる外国人の方をあえて外国人扱いせずに接すると言葉が全てわからなくてもコミュニケーションを取れるのではないかなと感じました。
- ・市区町村、企業、学習者、日本語教師、日本語支援者、市民の連携。分断を繋ぐ国際交流協会や日本語教育に関するNPO法人などの非営利団体からの連携、市民リテラシーの醸成、外国人住民にとっての選択肢を増やすこと
- ・海外の人の文化を知る機会とそこに興味がある人にアクセスする力が必要だと思います
- ・外国人×地域の住民の相互理解ができる日本語教室やイベントを考える場所や人の確保。団体等だけでなく一般向けのWS(イベント型)の開催。
- ・日本人が持つ無意識な差別に気付くこと
- ・多様な外国人人材と市民との交流の場をどのように設定できるか(人的予算的な支援の確保)
- ・在住外国人の方との定期的な顔を合わせ話し合い、交流を深めつつ、ニーズの把握ができれば良いのかなと思いました。顔見知り、ご近所さんの関係になると、お互いに自分の問題として取り組んでいけるかも…と思いました。
- ・①マスメディアなどによる外国人材にかかるポジティブな報道②自治体間、受け入れ企業間といった横の連携
- ・地域日本語教育及び地域住民の意識向上、外国人の社会参画など

(原文通り記載)

問4 本日の感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・日本語教育の実践で、初級日本語クラスのような例がありましたが、その目的が何であったのかなと思いました。日本語学校と同じ機能を自治体に求めるということでしょうか?外国人の言語保証を誰がどのように担うのかという点を、北海道はどのようにとらえているのかという点に興味があって参加しましたが、このワークショップの狙いが十分には説明されていないと感じられました。一方で、4市のニーズや現状分析はさすがだなと思うところがありました。
- ・多文化クイズは楽しく外国の文化を知ることが出来て良かったです。
- ・私は日本語教師になったばかりですが、今回のセミナーで初めて北海道の現状を知ることができました。旭川にいてもどこにいても、オンラインで日本語教育の場を提供できるような仕組みがもっと確立されていけば、少しでも役に立てるのではないかなと思いました。しかし、現状では、旭川にいて生活をしているだけでは、何がどこで必要とされているかなど情報がほとんど入ってこないのが、今回参加できて本当に良かったです。ありがとうございました。今後も何かあればぜひ何かあればぜひ参加したいと思っておりますので、よろしくお願ひします。
- ・とても勉強になりました。まだこのような活動について知識が浅いのでもっと勉強したいですし、やはり1番勉強になるのは外国人の方から直接話を聞いたり、何を思っているのか知ることだと思ったので、こういう機会があればたくさん参加したいと感じました。
- ・大変勉強になりました。また、かえって遠隔であったことにより道内各地からの参加者との意見交換やアクティビティができたと感じたほか、参加しやすさを実感した。またこのようなワークショップ、セミナーがあれば是非参加したい。事前に送って頂いた資料が全てたいへん見やすく、参照しやすかった。進行がちょうどよく、あっという間に感じられた。
- ・多方面で国際交流が行われていることに驚きました。お互いが助け合って行ける社会を作りたいです。
- ・コロナの影響で実際に会うことができない中では、仕方がないのですが、グループでの話の時間が少なかったのが残念です。せっかく出会ったのにこれで終わりではなく、次回につながら、例えば連絡先の交換など。外国人の方が話す機会が少なかった気がします。
- ・「多文化共生WSに参加したよ」と、知り合い(50代男性一般人、民生委員、PTA、学校のコミュニティースクール役員など兼任している方)に話しても「なにそれ?」と答えてきました。今こそ「多文化共生」とはなにか?と一般の方達にもっと解りやすく「多文化共生」という言葉を取り崩して知ってもらい、広めていくとさだとおもいます。もうすでに、このような事業を行い周知に努めている地域や団体がWSでご説明した地域の他にもありますが、その他の地域をさらに深掘りしどのような事業展開をしているかを調べてみることを考えてみたいですね。外国人との意思疎通は共に喜ぶ私たちにとってイベントや教養や交流も大切ですが、目に見えない大切なものを共有することも大事なかなと思います。
- ・リモートならではの、他地域の方々とお話できて楽しかったです。

(原文通り記載)

○アンケート（外国人参加者）

（回収7名/8名）

問1 このワークショップについてどこで知りましたか（複数選択可）。

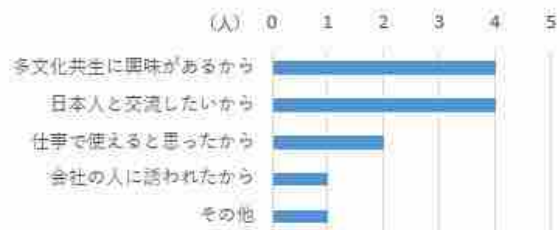
回答	人数(人)
1 会社から知りました	1
2 キャリアバンクからの案内	2
3 市役所から知りました	0
4 学校の先生	0
5 その他	4

その他：
 ・学校から知りました ・先生
 ・先生 ・先生から教えてくれました



問2 ワークショップに参加した理由を教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	4
2 日本人と交流したいから	4
3 仕事で使えると思ったから	2
4 会社の人に誘われたから	1
5 その他	1



問3 今、生活で困っていることがあれば教えてください。

・まだわからないことはたくさんあるので時々大変です
 ・別にありません。ありがとうございます。
 《原文通り記載》

問4 今、住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

・気軽に参加できる交流会があればと思います。
 《原文通り記載》

今回のワークショップは、新型コロナウイルス感染症拡大のため、対面開催を中止としオンラインに切り替え、空知、上川、胆振地域の合同開催で行った。日本人側には、室蘭市、旭川市、滝川国際交流協会、札幌国際プラザ、JICA 等の職員が参加した。また外国人側には、美唄市、IT 系企業の社員、日本語学校の生徒等が参加した。

オンライン開催のため、道内各地や東京在住者の多文化共生に関心の高い参加者とのグループ討議を行うことができた。アンケートでも「かえって遠隔であったことにより道内各地からの参加者との意見交換やアクティビティができた」「他地域の方々とお話しできて楽しかった」との高評価を得た。一方では、「せっかく出会えたのにこれで終わりではなく、例えば次回につながる連絡先の交換などがしたかった」などの感想が寄せられ、オンラインならではのデメリットも露呈した。

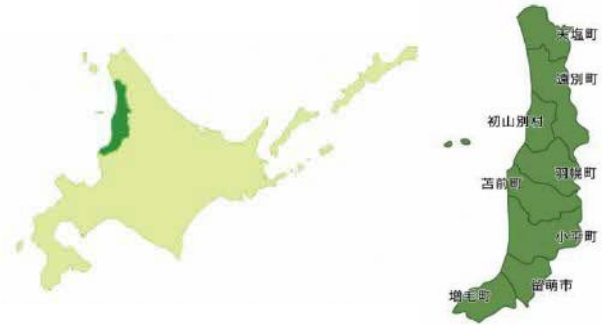
アンケート内で「多文化共生を進めるためにどのような取組が必要か」という質問に対し、「地域において、多文化共生に向けた取組みを推進していくリーダー（キーマン）の養成が必要だと感じる」や「外国人と地域住民の相互理解ができる日本語教室やイベントを場所や人の確保」等の様々な意見を聞くことができた。

6. 留萌地域

1) 地域概況

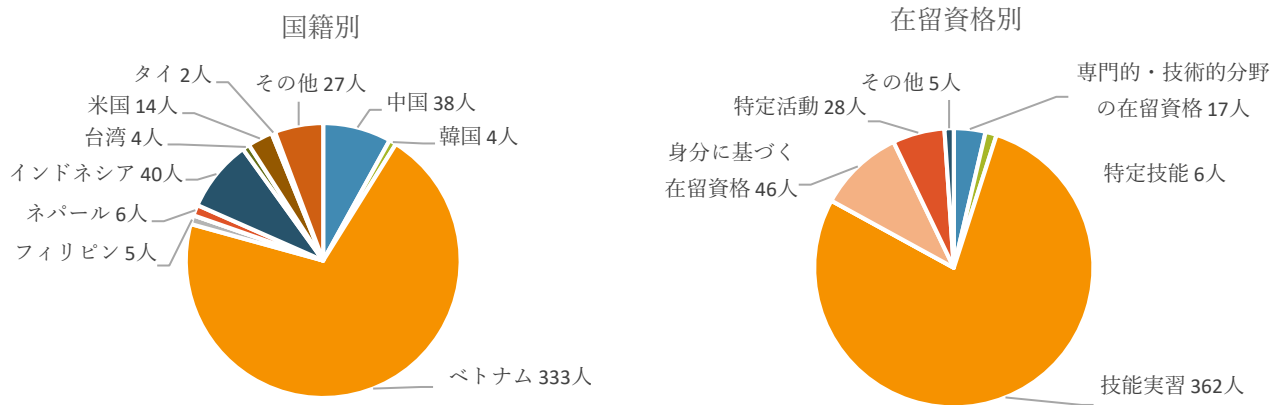
○地域の概要

総人口	47,922人(平成27年国勢調査)
地域構成	1市6町1村
外国人数	473人(2020年6月末時点)
主な国籍	ベトナム
主な在留資格	技能実習



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	台湾	米国	タイ	その他
留萌地域総数	473人	38人	4人	333人	5人	-	6人	40人	4人	14人	2人	27人
留萌市	153人	4人	3人	124人	1人	-	6人	1人	-	2人	-	12人
苫前郡羽幌町	24人	2人	-	-	2人	-	-	14人	1人	2人	-	3人
増毛郡増毛町	91人	4人	-	78人	1人	-	-	7人	-	1人	-	-
留萌郡小平町	71人	8人	1人	50人	-	-	-	5人	-	1人	-	6人
苫前郡苫前町	27人	2人	-	13人	-	-	-	7人	-	2人	1人	2人
苫前郡初山別村	9人	-	-	-	-	-	-	6人	1人	2人	-	-
天塩郡遠別町	63人	6人	-	51人	1人	-	-	-	-	1人	-	4人
天塩郡天塩町	35人	12人	-	17人	-	-	-	-	2人	3人	1人	-

法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」(下記同)

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
留萌地域総数	464人	17人	6人	362人	-	46人	28人	5人
留萌市	153人	9人	2人	108人	-	12人	17人	5人
増毛郡増毛町	91人	2人	1人	83人	-	2人	3人	0人
留萌郡小平町	71人	1人	0人	61人	-	3人	6人	0人
苫前郡苫前町	27人	3人	0人	20人	-	3人	1人	0人
苫前郡羽幌町	24人	1人	3人	14人	-	6人	-	0人
天塩郡遠別町	63人	0人	0人	55人	-	8人	-	0人
天塩郡天塩町	35人	1人	0人	21人	-	12人	1人	0人

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・留萌地域は沿岸部にあり、漁業がさかんである。また、この地域に在住する外国人には技能実習生が多く、在住外国人全体の約76%を占める。主に漁業や水産食品加工企業、建設系企業などにみられる。また国籍別には、5年前までは中国人が多かったが、現在はベトナム人が最も多く在住している。
- ・留萌市、増毛町、小平町、遠別町、天塩町ではベトナム人が多いが、羽幌町、苫前町、初山別村ではインドネシア人の方が多くみられるという特徴がある。
- ・遠別町が昨年度の「外国人材地域サポート促進事業」のモデル地域の一つとなり、遠別町外国人技能実習生受入対策協議会を設立。また本年度より文化庁「地域日本語教室スタートアップ事業」を活用しながら、日本語教室「かけはし」を開設している。
- ・今回のワークショップ開催地の天塩町役場は、豊富町や中川町など近隣の地域とも日ごろから連携や情報共有を行っており、また今後、町として外国人との多文化共生に積極的に取り組む予定だ。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	2月4日(木) 18:00~20:00
会場	天塩町社会福祉会館 大ホール
参加人数	23名(外国人8名、日本人15名)
テーマ	日本語教育

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所属	人数
1	天塩商工会	1名
2	留萌振興局	2名
3	信用金庫	1名
4	ホテル	1名
5	天塩町	4名
6	建設系企業	7名（うち外国人6名）
7	製造系企業	3名（うち外国人2名）
8	一般参加者	3名
	合計	22名

○グループ討論の結果「理想の日本語教室とは」

- ・料理やかるたをしながら学ぶ教室
- ・サッカーをしながら学ぶ。その後に温泉に入る
- ・実習生同士で市町村交流ができる教室
- ・町内の外国人を受入れている全事業所との交流会
- ・ベトナム料理と日本の料理を食べる交流会

3) 結果

○アンケート（日本人参加者）

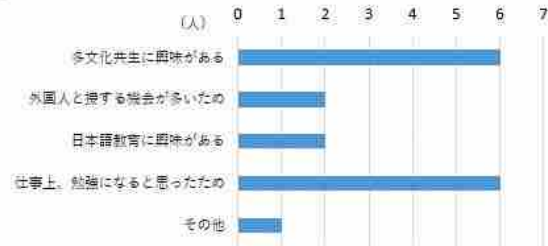
（回収 11 名/13 名）

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	6
2 外国人と接する機会が多いため	2
3 日本語教育に興味がある	2
4 仕事上、勉強になると思ったため	6
5 その他	1

※未回答1名

その他
・外国人労働者の受け入れを考えているため



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか（1つのみ選択可）。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	10
2 イメージできなかった	0
合計	10

※未回答1名



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・互いの文化を知る機会をもっと増やす取り組みが必要と感じます
- ・天塩町に中国から農村、漁業に嫁いだ人の多い、どの様にして日本人になじんだのか、等
- ・町民に交流に興味を持ってほしい
- ・地域とのコミュニケーション
- ・研修生受け入れ機関等が今日のような会に積極的に参加するようにして、研修生同士の交流を深める等、意識の改革等の取組が必要
- ・言葉が大変

（原文通り記載）

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・貴重な時間でした
- ・もうすこしお話ができたらと思いましたが、まがるに・・・
- ・本日の資料はとても良かったあ
- ・グループワークの取りまとめ役の方を一般の方にするんじゃなく、運営側の方が、慣れている方のほうが、しっかりした意見にまとまると思います
- ・ベトナム人とは初めて会え、楽しかった

（原文通り記載）

○アンケート（外国加者）

（回収 8 名/8 名）

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	6
2 日本人と交流したいから	2
3 仕事で使えると思ったから	0
4 会社の人に誘われたから	0
5 その他	0



問2 ワークショップでよかったところを教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 ほかの町の紹介	6
2 日本語教育についてのミニセミナー	7
3 日本語授業	7
4 グループワーク	6
5 その他	0



問3 今、生活で困っていることがあれば教えてください。

- ・さむいと思うよ。
- ・ほっかいどうがさむいですから、あぶらだいがたかいです。
- ・さむい
- ・困っていることがありません
- ・今、生活でだいじょうぶです。

(原文通り記載)

問4 今、住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

- ・バスがほしいです。
- ・あさひへいきたい。
- ・オンデマンドバス出してほしい。気軽に遠別行きたい。

(原文通り記載)

今回は、開催地となった天塩町が主体となって周知を行った。参加者は役場職員や振興局職員、信用金庫の職員や、これから外国人材受入れを検討しているホテルの方など。また天塩町内の2つの企業から8名のベトナム人技能実習生が参加した。

事例紹介では、隣の遠別町取組について中心的に話したところ関心が高かった。アンケートによると「初めてベトナム人と会えた」とあり、外国人と交流する貴重な機会となったことがうかがえる。また、技能実習生からはバスなど移動手段が欲しいとの要望が出ていた。

尚、開催の前日に暴風雪警報が出たり、当日の気温が-10℃以下で非常に寒かったため、当日のキャンセルも相次いだ。この地域のみならず、北海道では開催時期にも配慮する必要があることを改めて実感した。

新報 2021年(令和3年)2月6日(土曜日)

外国人と共生へ 妙案は

天塩でワークショップ 町内ベトナム人 住民と意見交換

【天塩】多文化共生について考えるワークショップが4日夜、町社会福祉会館で開かれた。町内で働くベトナム人8人と住民ら30人が参加し、地域と共に生きる可能性について意見を交わした。

天塩町社会福祉会館で開かれた「地域住民と外国人との多文化共生ワークショップ」の様子が写っている。参加者は座り、話し合いを行っている。

町内では、建設業や1次産業での人手不足を解消するため、ベトナム人などの外国人労働者を数多く受け入れている。天塩町内には1月末時点で外国人労働者が10人おり、ワークショップではまず、外国人労働者の受け入れについて、日本語教室が通訳ボランティアで開かれていた事例が発表された。

続いて、日本語を学んでいる外国人に話す際の注意として①文章をつなげず、短い文で簡単に伝えたい。②「きょうの雨」にするなど、

容易な言葉を使わない。③表現は使わない。④ポイントが紹介された。

また参加者が3つのグループに分かれて議論。町内日本語学校を開設するすれば、どのような内容のものにしたいか意見交換した。日本語やベトナム料理を食べた後に日本語が等々るとい「折り紙や相撲など、日本文化も一緒に学びたい」などの意見が出た。

この後、建物の位置を日本語で説明してもらい、地図作り挑戦するゲームが行われ、ベトナム人と住民が笑顔で交流する取り組んだ。

出席者のケン・ゴック・チャツと、ベトナム人技能実習生は「日本語がわかりやすく、ゲームも楽しかった」と笑顔で話していた。(前掲の)

ベトナム人と住民が協力して行われた地図作りゲームの様子が写っている。

新報 2021年(令和3年)2月7日(日曜日) 2

「多文化共生」に理解 天塩でワークショップ開催

地域に必要な取り組み探る

【天塩】北海道建設部が共催するワークショップが、参加者が外国人材受入れと地域活性化の文化、社会情勢などについて話し合った。天塩町社会福祉会館で開かれた「地域住民と外国人との多文化共生ワークショップ」の様子が写っている。

町内では、建設業や1次産業での人手不足を解消するため、ベトナム人などの外国人労働者を数多く受け入れている。天塩町内には1月末時点で外国人労働者が10人おり、ワークショップではまず、外国人労働者の受け入れについて、日本語教室が通訳ボランティアで開かれていた事例が発表された。

続いて、日本語を学んでいる外国人に話す際の注意として①文章をつなげず、短い文で簡単に伝えたい。②「きょうの雨」にするなど、

容易な言葉を使わない。③表現は使わない。④ポイントが紹介された。

また参加者が3つのグループに分かれて議論。町内日本語学校を開設するすれば、どのような内容のものにしたいか意見交換した。日本語やベトナム料理を食べた後に日本語が等々るとい「折り紙や相撲など、日本文化も一緒に学びたい」などの意見が出た。

この後、建物の位置を日本語で説明してもらい、地図作り挑戦するゲームが行われ、ベトナム人と住民が笑顔で交流する取り組んだ。

出席者のケン・ゴック・チャツと、ベトナム人技能実習生は「日本語がわかりやすく、ゲームも楽しかった」と笑顔で話していた。(前掲の)

ベトナム人と住民が協力して行われた地図作りゲームの様子が写っている。

7. 宗谷地域

1) 地域概況

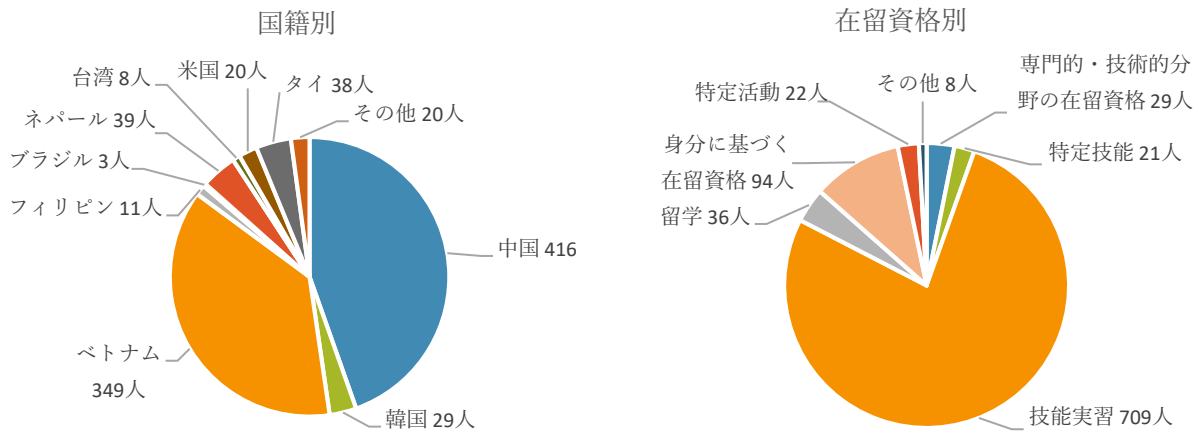
○地域の概要

総人口	67,503人(平成27年度国勢調査)
地域構成	1市8町1村
外国人数	933人(2020年6月末時点)
主な国籍	中国、ベトナム
主な在留資格	技能実習、永住者、留学、教育



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	台湾	米国	タイ	その他
宗谷地域総数	933人	416人	29人	349人	11人	3人	39人	-	8人	20人	38人	20人
稚内市	444人	164人	24人	185人	6人	-	39人	-	2人	8人	1人	15人
宗谷郡猿払村	169人	106人	1人	59人	-	-	-	-	-	3人	-	-
枝幸郡浜頓別町	79人	63人	1人	13人	1人	-	-	-	-	1人	-	-
枝幸郡中頓別町	4人	-	-	-	-	-	-	-	1人	2人	-	1人
枝幸郡枝幸町	136人	58人	1人	35人	1人	-	-	-	-	1人	37人	3人
天塩郡豊富町	40人	5人	1人	31人	2人	-	-	-	-	1人	-	-
礼文郡礼文町	25人	7人	-	13人	-	-	-	-	3人	2人	-	-
利尻郡利尻富士町	10人	2人	-	3人	-	3人	-	-	1人	1人	-	-
天塩郡幌延町	26人	11人	1人	10人	1人	-	-	-	1人	1人	-	1人
利尻町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」(下記同)

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
宗谷地域総数	919人	29人	21人	709人	36人	94人	22人	8人
稚内市	444人	17人	3人	318人	36人	54人	9人	7人
宗谷郡猿払村	169人	2人	13人	142人	-	10人	1人	1人
枝幸郡浜頓別町	79人	1人	0人	73人	-	5人	-	0人
枝幸郡枝幸町	136人	4人	2人	120人	-	5人	5人	0人
天塩郡豊富町	40人	1人	3人	30人	-	6人	-	0人
礼文郡礼文町	25人	3人	0人	17人	-	2人	3人	0人
天塩郡幌延町	26人	1人	0人	9人	-	12人	4人	0人

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・宗谷地域に在住している外国人のうち、技能実習生が圧倒的に多く77%を占めている。
- ・国籍別では、他地域と比べ中国人が最も多く、416人（45%）となっている。
- ・外国人労働者は、製造業や農業、建設を中心に在籍している。
- ・稚内北星学園大学ではネパールからの留学生がITを学んでいる。ネパール人留学生を主として受入れている学校は道内では珍しい。また、卒業後、日本での就職を希望する留学生が多く、就労支援が課題である。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	10月28日（水）17:00～19:00
会場	宗谷合同庁舎 別館2階 6号会議室
参加人数	23名（外国人4名、日本人19名）
テーマ	イベント企画

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所属	人数
1	観光ボランティアガイド	7名
2	北海道宗谷総合振興局	6名
3	稚内北星学園大学	5名（うち外国人4名）
4	稚内市	3名
5	酪農業者	1名
6	天塩町	1名
	合計	23名

○グループ討論の結果「外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベント企画を考えよう」

- ・「極東アジア・カルチャーフェス in てっぺん」
- ・盆踊りのような単純で仲間になれる踊りのイベント。各国の踊りを発表する
- ・各国のお茶とスイーツを紹介し合うイベント、他

3) 結果

○アンケート（日本人参加者）

（回収 19 名/19 名）

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	9
2 外国人と接する機会が多いため	2
3 外国人との交流に興味がある	7
4 仕事上、勉強になると思ったため	9
5 その他	1



その他
・12/11に同ワークショップを担当して開催するから

問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか？（1つのみ選択可）。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	17
2 イメージできなかった	1
合計	18



※未回答1名

問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

・日本人と各国の人々は参加できるイベントがあると楽しく距離をちぢめられそう
 ・多言語表記、キャッシュレス化をもっと進められると更に色々な方が来られると思います。
 ・積極的に進めるリーダーが必要と思う。
 ・稚内では、外国人を見かける機会が依然に比べ多くなってきているように感じています。その一方で、市民の外国人に対する理解はほとんど進んでいないと思います。そのため、文化や宗教、生活習慣や言語など、互いを理解し合える機会が必要だと思います。
 ・外国人と直接に接する機会を増やすような取組が必要であると感じます。
 ・まずは、多文化共生の全国のを知り、勉強することが必要だと思いました。
 ・多文化共生という言葉の意味が地域で理解されていない。国際交流を混同してしまっている。
 ・お互いを思いやる気持ち。稚内を好きになってほしいという気持ちをそだてるようなイベント・セミナー
 ・外国人と思わないで私たちと同じと考えて、共同でやっていきたい！
 ・国名は分かっているもそれ以上の具体的な文化や宗教などを知る機会を何度も（定期的：月1回以上）やって参加しやすいようにしていくと良いのではないかと。
 ・知る機会、学ぶ機会が少ない。取り組みを発信することが重要だと思いました。
 ・地域にすんでいる外国の方への理解を深めなければならない。また外国の方との交流の場を創出していかなければならない。

《原文通り記載》

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・楽しかったです。今後も関わりして下さい。
- ・有益な情報提供ありがとうございました
- ・楽しく多文化共生について学べて満足しています！ありがとうございました！
- ・多文化共生を推進するために、行政として今後様々な取り組みを進めていきたいと考えています。
- ・ネパール人留学生と話す機会が今まであまりなかったので、今回のワークショップでその機会があり、大変勉強になりました。
- ・水田部長さんのお話もキムさんのお話も面白かったです。ネパールの留学生とお話しも出来てグループワークも楽しかったです。
- ・思ったより早く時間が経過した。

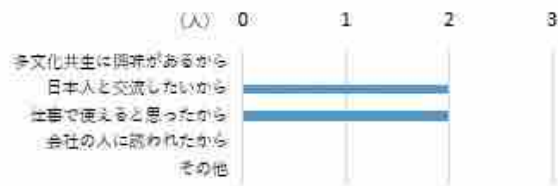
（原文通り記載）

○アンケート（外国人参加者）

（回収 4 名/4 名）

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	0
2 日本人と交流したいから	2
3 仕事で使えると思ったから	2
4 会社の人に誘われたから	0
5 その他	0



問2 どんなイベントがあったら参加したいと思いますか（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 日本語を勉強できるイベント	0
2 日本の文化について勉強できるイベント	1
3 スポーツイベント	0
4 日本人と交流できるイベント	3
5 自分の国の文化を教えるイベント	0
6 その他	0



問3 今住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

- ・今日もりあげたようなイベントをしてほしいです。

（原文通り記載）

ネパール人留学生から年配の市民まで、幅広い年齢の方が参加し交流できたのは、今回のワークショップの特徴である。また日本語が流暢に話せるネパール人留学生が参加することにより、活発な意見交換ができた。また、ネパール文化にも少し触れることができ、日本人参加者にとっては貴重な経験となったようである。

日本人参加者からは、地域に住む外国人が増えてきたが、外国人市民に対する理解が進んでいないとのコメントがあり、そもそも外国人と接する機会も、外国人について知る機会もまだまだ少ないことが明らかになった。一方で、外国人に対する参加者の関心は高く、それを感じられたのがグループ討議の時間だった。アンケートのコメントにあるように、外国の文化や宗教を知る機会を定期的に関催し、日本語が流暢な留学生だけではなく、日本語があまりできない外国人の住民とも交流をすることにより、「地域に住む外国人」についてより詳しくイメージができるようになり、多文化共生に向けた具体的な提案を検討できると考えられる。

8. オホーツク地域

1) 地域概況

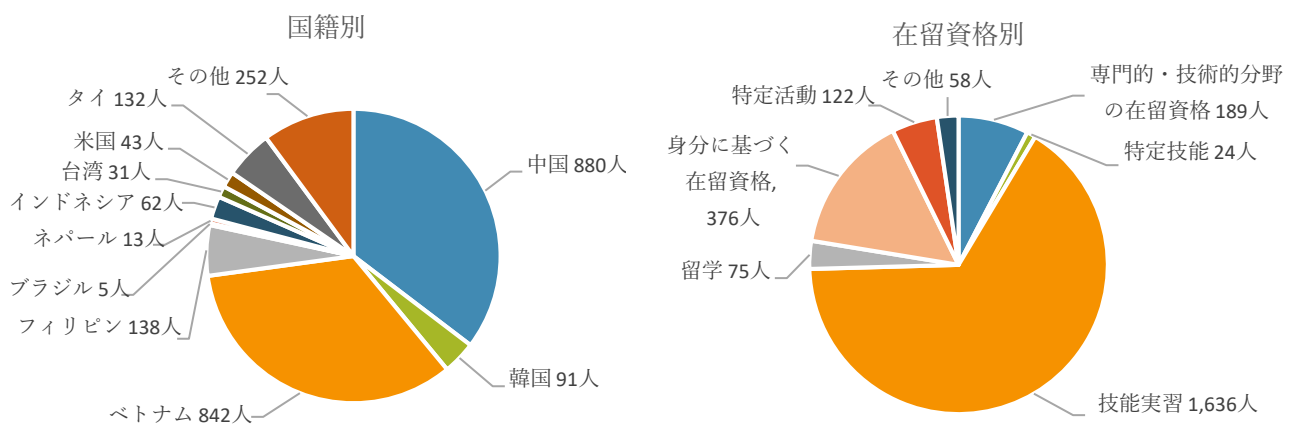
○地域の概要

総人口	310,009人 (H22 国勢調査)
地域構成	3市14町1村
外国人数	2,489人 (2020年6月末時点)
主な国籍	中国、ベトナム
主な在留資格	技能実習、永住者、技術・人文知識・国際業務



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計 (2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市 区 町 村	総 数	中 国	韓 国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インド ネシア	台 湾	米 国	タイ	そ の 他
オホーツク地域総数	2,489人	880人	91人	842人	138人	5人	13人	62人	31人	43人	132人	252人
北見市	461人	115人	47人	103人	37人	2人	4人	15人	16人	9人	-	113人
網走市	327人	184人	16人	47人	12人	1人	5人	13人	1人	13人	-	35人
紋別市	463人	121人	7人	257人	3人	-	-	6人	1人	-	56人	12人
網走郡美幌町	95人	37人	1人	15人	11人	-	3人	-	-	-	3人	25人
網走郡津別町	13人	6人	-	2人	2人	-	-	-	-	1人	-	2人
斜里郡斜里町	193人	20人	4人	85人	11人	-	-	4人	8人	2人	39人	20人
斜里郡清里町	4人	-	1人	-	1人	-	-	-	-	1人	-	1人
斜里郡小清水町	19人	3人	-	12人	2人	-	-	-	-	-	-	2人
常呂郡訓子府町	36人	6人	-	11人	16人	-	-	-	-	1人	-	2人
常呂郡置戸町	5人	-	-	-	4人	-	-	-	-	1人	-	-
常呂郡佐呂間町	206人	121人	2人	35人	11人	-	-	-	1人	1人	25人	10人
紋別郡遠軽町	105人	18人	7人	29人	12人	1人	-	23人	3人	3人	-	9人
紋別郡湧別町	143人	35人	1人	87人	10人	-	1人	-	-	-	4人	5人
紋別郡滝上町	26人	3人	-	18人	-	1人	-	-	-	2人	-	2人
紋別郡興部町	90人	39人	3人	42人	-	-	-	1人	1人	-	-	4人
紋別郡西興部村	28人	-	-	20人	2人	-	-	-	-	6人	-	-
紋別郡雄武町	260人	166人	1人	73人	4人	-	-	-	-	3人	5人	8人
網走郡大空町	15人	6人	1人	6人	-	-	-	-	-	-	-	2人

法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」（下記同）

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総 数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
オホーツク地域総数	2,480人	189人	24人	1,636人	75人	376人	122人	58人
北見市	461人	49人	-	162人	63人	132人	20人	35人
網走市	327人	21人	2人	210人	12人	55人	24人	3人
紋別市	463人	20人	8人	395人	-	36人	2人	2人
網走郡美幌町	95人	3人	3人	60人	-	20人	9人	-
網走郡津別町	13人	4人	-	2人	-	6人	1人	-
斜里郡斜里町	193人	21人	-	127人	-	28人	8人	9人
斜里郡小清水町	19人	-	-	15人	-	4人	-	-
常呂郡訓子府町	36人	-	-	29人	-	6人	1人	-
常呂郡佐呂間町	206人	4人	2人	142人	-	12人	45人	1人
紋別郡遠軽町	105人	35人	2人	32人	-	32人	3人	1人
紋別郡湧別町	143人	8人	-	117人	-	9人	8人	1人
紋別郡滝上町	26人	10人	-	13人	-	2人	-	1人
紋別郡興部町	90人	1人	-	78人	-	11人	-	-
紋別郡西興部村	28人	1人	-	19人	-	3人	-	5人
紋別郡雄武町	260人	12人	7人	225人	-	15人	1人	-
網走郡大空町	15人	-	-	10人	-	5人	-	-

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・この地域の基幹産業は、漁業、水産加工、酪農である。
- ・国籍別では、中国人とベトナム人の割合が多い。在留資格別では、「技能実習」が最も多く地域全体の66%を占めており、特に紋別市が多い。
- ・紋別市は昨年度の「外国人材地域サポート促進事業」のモデル地域として道の支援を受け、紋別市役所国際交流課の「国際交流サロン」が技能実習生向けの様々な交流イベントを実施している。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	2月12日（金）18:00～20:00
会場	オンライン開催
参加人数	13名（外国人2名、日本人11名）
テーマ	イベント企画

○参加者

No.	所 属	人 数
1	ホテル	1名
2	協同組合	1名（うち外国人1名）
3	北海道	2名
4	北海道石狩振興局	1名
5	日本国際協力センター	1名
6	北海道国際交流・協力総合センター	2名
7	人材サービス系企業	1名
8	一般参加者	4名（うち外国人1名）
	合 計	13名

○グループ討論の結果「外国人と日本人の交流を促進するためのイベント企画を考えよう」

- ・多文化のフェスティバル
（色々な人が興味を持ちそうな、その国の服装、食べ物、世界の挨拶とか踊りを紹介）
- ・「腕を広げる（和を広がる、共に手を携える～）フェス」
（色々な国な料理を食べ、文化の違いを紹介し、ゲームで交流する）

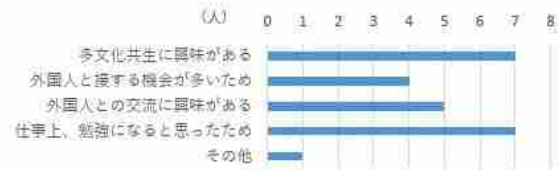
3) 結果

○アンケート（日本人参加者）

（回収9名/11名）

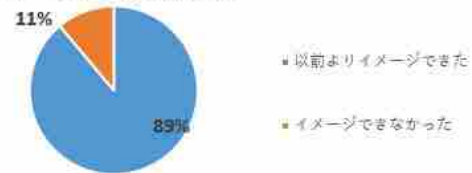
問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	7
2 外国人と接する機会が多いため	4
3 外国人との交流に興味がある	5
4 仕事上、勉強になると思ったため	7
5 その他	1



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか？（1つのみ選択可）。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	8
2 イメージできなかった	1
合計	9



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・外国人に向けた支援のみならず、地域住民側の理解・意識変容への動きかけ
- ・人材育成、AI等新技術の活用（高度な翻訳や異文化理解アプリ等の開発）、日本人の海外生活経験者を増やす
- ・外国人材及び受入企業だけでなく、地域全体の取組
- ・動くために来る日本人を住民として受け入れる準備（公的サービス、災害時の対応等）
- ・ワークショップでも話題に上がったように、イベントを企画実行する際の、イベントの周知がうまくできない等、イベント内容だけでなく、プロモーションにも具体的に力をいれていくことも必要だとこのセミナーに参加して思いました。
- ・この地域にお住まいの方との交流。
- ・様々な国の文化を理解できる機会
- ・互いの国の文化の紹介や交流が継続できるイベントの企画
- ・やさしい日本語の普及（日本人も含めて）

《原文通り記載》

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・実際に日本に居住されている外国人の方が参加していた点が新鮮で、事例紹介なども大変勉強になりました。オンラインで開催していただき、ありがとうございました
- ・「やさしい日本語」への言いかえは大変参考になりました
- ・参加型の内容があるのは良いアイデアだと思いますが、内容は「多文化共生」ではなく「異文化理解」に留まるものでした。外国人と同じ地域で生きることは、生易しいことではないと思います。外国の方に参加してもらうのであれば、生活する上で大変なことを話してもらい、日本人参加者が何をすべきか話合う内容等を言めると、今後に繋がっていく有意義なワークショップになると思います。
- ・グループワークで話し合った企画を実現するためにサポートして欲しい
- ・初めてこのような機会に参加しましたが、この地域にお住まいの海外の方が結構いらっしゃることを知れたのが良かったです。
- ・外国から来た方やいろんな場所で働いている方の話を聞くことができ、刺激になりました。ありがとうございました

《原文通り記載》

○アンケート（外国人参加者）

（回収2名/2名）

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください（いくつでも選べる）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	2
2 日本人と交流したいから	0
3 仕事で使えると思ったから	0
4 会社の人に誘われたから	0
5 その他	0



問2 どんなイベントがあったら参加したいと思いますか（いくつでも選べる）。

回答	人数(人)
1 日本語を勉強できるイベント	2
2 日本の文化について勉強できるイベント	2
3 スポーツイベント	0
4 日本人と交流できるイベント	1
5 自分の国の文化を教えるイベント	2
6 その他	0



問3 今住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

- ・わがしをつくってみたい。
- ・住宅について説明会。地域との交流会

《原文通り記載》

オホーツク地域でのワークショップは、新型コロナウイルス感染症拡大のため、対面での実施からオンラインへ切り替えての開催となった。日本人はオホーツク地域からの参加は少なく、札幌など他地域からの参加が多かった。また、オホーツク地域の市町村職員の参加は見られなかった。技能実習生が多く在住している地域ではあるが、紋別市を除けば多文化共生に対する住民の関心はまだ高くないように見受けられる。外国人参加者は、JAのベトナム人技能実習生と江別市のインドネシア人の2名が参加した。

アンケートには「初めてこのような機会に参加しましたが、この地域にお住いの海外の方が結構いらっしゃることを知れたのが良かったです。」との感想が述べられており、この地域のようにまだ多文化共生への関心・取組が高くない地域においては、まずは地域住民への意識啓発が重要であり、今回のような日本人と外国人が参加して交流を持てるワークショップなどの開催が効果的であると感じられた。

9. 日高地域

1) 地域概況

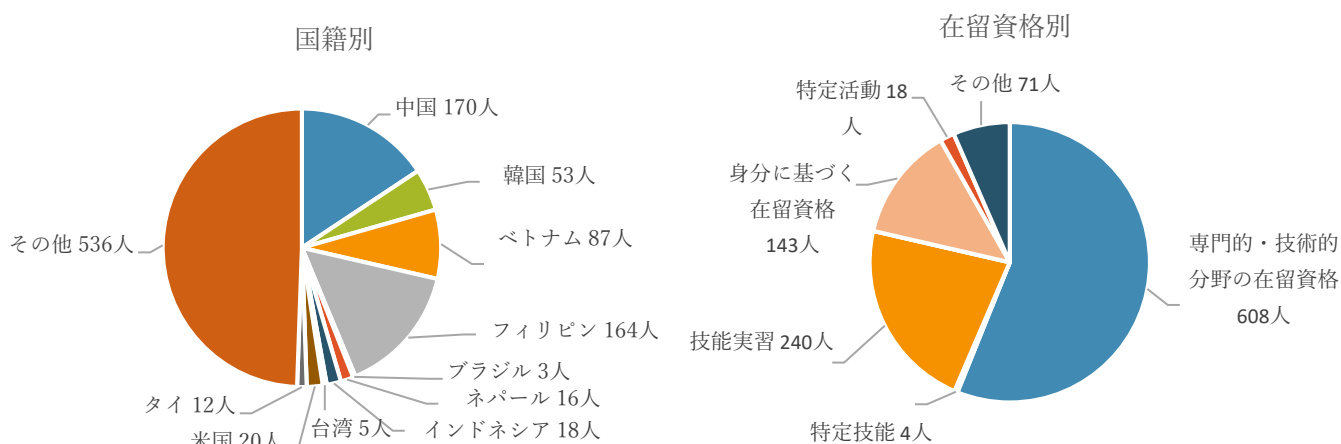
○地域の概要

総人口	69,015人(平成27年国勢調査)
地域構成	7町
外国人数	1,084人(2020年6月末時点)
主な国籍	中国、フィリピン、インド
主な在留資格	技能、技能実習



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	台湾	米国	タイ	その他
日高地域総数	1,084人	170人	53人	87人	164人	3人	16人	18人	5人	20人	12人	536人
沙流郡日高町	284人	15人	6人	12人	78人	1人	6人	-	2人	3人	2人	159人
沙流郡平取町	125人	106人	3人	5人	-	2人	-	-	2人	2人	-	5人
新冠郡新冠町	160人	1人	1人	45人	24人	-	-	-	1人	3人	8人	77人
浦河郡浦河町	289人	4人	8人	9人	42人	-	8人	5人	-	3人	1人	209人
様似郡様似町	24人	8人	2人	-	4人	-	-	-	-	6人	-	4人
幌泉郡えりも町	45人	19人	3人	2人	2人	-	-	13人	-	2人	-	4人
日高郡新ひだか町	157人	17人	30人	14人	14人	-	2人	-	-	1人	1人	78人

法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」(下記同)

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
日高地域総数	1,084人	608人	4人	240人	-	143人	18人	71人
沙流郡日高町	284人	204人	1人	20人	-	31人	5人	23人
沙流郡平取町	125人	2人	-	99人	-	19人	5人	-
新冠郡新冠町	160人	80人	3人	53人	-	10人	2人	12人
浦河郡浦河町	289人	233人	-	8人	-	20人	6人	22人
様似郡様似町	24人	10人	-	7人	-	4人	-	3人
幌泉郡えりも町	45人	1人	-	34人	-	9人	-	1人
日高郡新ひだか町	157人	78人	-	19人	-	50人	-	10人

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・日高地域は国内有数の競走馬産地であり、多くの外国人が競走馬育成調教場関連施設で働いている。在留資格でみると「技能実習」（「専門的・技術的分野の在留資格」に含む）の在留資格が彼らの在留資格にあたり、実に608人のうち576人が取得している。また統計上は「その他」に分類されているが、その多くがインド人であり、北海道の他地域と比べても実に特殊な地域である。
- ・2017年6月末時点の統計では、この地域の在留外国人数は総数で639人であり、この3年でその数は約1.7倍となっている。また、国籍別にみると2017年6月末時点で「その他」の国籍は198人であったが、現在は約2.7倍となっている。このようにこの地域では外国人の数はここ数年で急激に増えており、地域としても外国人との多文化共生への取組が必要であることを認識し始めている状況である。
- ・インド人の増加にあたり、ワークショップ開催地の浦河町では「浦河日印友好協会」によってインド人に対する日本語教育が行われた実績がある。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	11月6日（金）17:00～19:00
会場	浦河町総合文化会館 第3研修室
参加人数	33名（外国人7名、日本人26名）
テーマ	イベント企画

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所属	人数
1	浦河町	4名
2	新ひだか町	1名
3	北海道日高振興局	1名
4	浦河高等学校	16名（うち外国人2名）
5	浦河日印友好協会	10名（うち外国人4名）
6	一般参加者	1名（うち外国人1名）
	合計	33名

○グループ討論の結果「外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベント企画を考えよう」

- ・「料理教室！」（各国料理の料理教室。参加者は自国の民族衣装を着て参加）
- ・「日本の季節の行事を楽しむ会！」
- ・世界の味（それぞれの国の音楽を流したり、民族衣装を着たり、各国の料理を楽しむイベント）
- ・「インド人もびっくり祭り」（本場のインドカレー料理教室。インド映画上映会など）、他

3) 結果

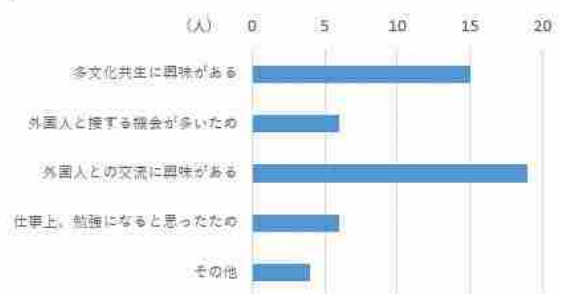
○アンケート（日本人参加者）

（回収 26 名/26 名）

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	15
2 外国人と接する機会が多いため	6
3 外国人との交流に興味がある	19
4 仕事上、勉強になると思ったため	6
5 その他	4

その他：
 ・時間があつたので誘われており、参加しました
 ・課題研究のため
 ・学校でやる課題研究にいかせると思い出席しました。
 ・SDGsについて勉強しているため



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか？（1つのみ選択可）。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	26
2 イメージできなかった	0
合計	26



- 以前よりイメージできた
- イメージできなかった

問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・お互いを知る機会を増やす
- ・積極的な交流、多様性の受容、国籍に左右されない均等な機会
- ・外国人を雇用している人の理解が深まれば、よってどう理解させるかという努力が必要に思う。
- ・まずは交流する機会を少しでも多くつくることですかね。
- ・もっとこういう機会を増やす。色々な国の人を呼び込む。
- ・外国の文化や宗教上のルールを学ぶこと。相手のことをきちんと理解すること
- ・日本語教室を様々な地域で開催する。
- ・日本の文化を一方向的に押し付けるのではなく、異文化を取り組むこと。
- ・他の文化をみんなであげいれ、よいところはとり入れる。
- ・この様なセミナーや、交流会(食事会など)などで外国人との交流を行えば、多文化共生は進めると思う。
- ・日本人が外国人に対する正しい知識をつけられるような取り組みが必要だと感じました。
- ・日本人に対する外国人受け入れのセミナー、日本語教室の設置。
- ・まず日本人が外国人の方を受入れることが必要だと思ったし、日本人がもっと外国人についての基礎知識を知る機会を増やしていけばよいと思った。
- ・互いの文化を尊重し合うことが大切だと思いました。
- ・その町の外国人の国籍などをわかるようにできたら良いのかと思いました。
- ・事業所の関係者も積極的に参加してほしい。
- ・今回のように、みんなで考えていって、それを実際に行動に移すことが大切だと思います。
- ・いろいろなイベントを通してお互いを知り合えるといい。

《原文通り記載》

問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・お互いを知る機会を増やす
- ・積極的な交流、多様性の受容、国籍に左右されない均等な機会
- ・外国人を雇用している人の理解が深まれば、よってどう理解させるかという努力が必要に思う。
- ・まずは交流する機会を少しでも多くつくることですかね。
- ・もっとこういう機会を増やす。色々な国の人を呼び込む。
- ・外国の文化や宗教上のルールを学ぶこと。相手のことをきちんと理解すること
- ・日本語教室を様々な地域で開催する。
- ・日本の文化を一方向的に押し付けるのではなく、異文化を取り組むこと。
- ・他の文化をみんなであげいれ、よいところはとり入れる。
- ・この様なセミナーや、交流会(食事会など)などで外国人との交流を行えば、多文化共生は進めると思う。
- ・日本人が外国人に対する正しい知識をつけられるような取り組みが必要だと感じました。
- ・日本人に対する外国人受け入れのセミナー、日本語教室の設置。
- ・まず日本人が外国人の方を受入れることが必要だと思ったし、日本人がもっと外国人についての基礎知識を知る機会を増やしていけばよいと思った。
- ・互いの文化を尊重し合うことが大切だと思いました。
- ・その町の外国人の国籍などをわかるようにできたら良いのかと思いました。
- ・事業所の関係者も積極的に参加してほしい。
- ・今回のように、みんなで考えていって、それを実際に行動に移すことが大切だと思います。
- ・いろいろなイベントを通してお互いを知り合えるといい。

《原文通り記載》

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・年齢層が幅広く色々な意見を聞けました。
- ・若い方たちが積極的に参加して下さって頼もしいです。引き続き浦河にいてほしいのですが、現状では難しいかな。
- ・セミナーのとき、もっと浦河の多文化共生に向けての実態、データが教わりたかった（浦河には何【国】人が何人いるなど）
- ・グループワークもあり、若い方（高校生など）から高齢の方まで幅広い年代（外国人も）の参加者がいて、とても楽しかったです。
- ・多文化クイズで色々な国のことが知れて楽しかったです。料理教室があったら行きたいと思いました。
- ・いろんな人の意見が聞けたし、イベントを聞くヒントも学べて勉強になりました。
- ・外国人のために、日本語の勉強会をやっているのがすごいと思った。
- ・多文化交流をする機会あまりなかったので、いい機会になりました。
- ・2時間では短い気がした。もっとほりまげて、半日や1日のセミナーでも良いと思った。
- ・ほぼ広い年齢の方や、他国の方がいらっしやって、気づけないような考えを知ることができ、楽しかったです。
- ・グループワークの時間がもう少し欲しかったです。外国人の方と同じ空間で活動できたことがとても楽しかったです。あまり経験したことのないイベントだったので新鮮でした!! ありがとうございます!!
- ・中々浦河町に任んでいる外国人の方とぶれ合う機会がなかったので、話したりできて良かったです。
- ・質疑の時間があれば良い。
- ・楽しく自分の視野を広げることができたと思います。ありがとうございます。
- ・クイズやグループワークで、アイスブレイクができたので良かったです。

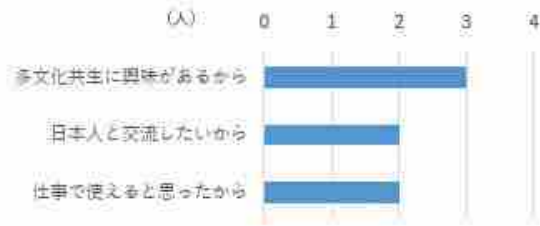
《原文通り記載》

○アンケート（外国人参加者）

（回収 26 名/26 名）

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	3
2 日本人と交流したいから	2
3 仕事で使えると思ったから	2
4 会社の人に誘われたから	0
5 その他	0



問2 どんなイベントがあったら参加したいと思いますか（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 日本語を勉強できるイベント	2
2 日本の文化について勉強できるイベント	3
3 スポーツイベント	2
4 日本人と交流できるイベント	2
5 自分の国の文化を教えるイベント	0
6 その他	1



その他：

events that teach, skills. For example cooking/origami.

問3 今住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

- ・ Workshop for school children about culture of other countries, with event planning like this.
- ・ I would like to see some of the events the groups make!
- ・ SUMMER SEASON

（原文通り記載）

今回の開催地である浦河町役場では、現状を踏まえ、今後外国人との多文化共生への取組が必要不可欠となってくること、地域住民から要望の声が上がっていること、そしてこのワークショップが住民にとって多文化共生への関心をもつきっかけとなればとの思いもあり、町が中心となって集客を行った。日本人参加者は、浦河町、新ひだか町、日高振興局の職員等をはじめ、今年度の本事業の中でも唯一となる浦河高等学校の高校生 14 名が参加した。また、外国人は浦河町の ALT や浦河日印協会に所属する町在住のインド人など計 7 名が参加した。

今回の特徴としては、高校生の参加があったことから年齢層の幅が非常に広がった点があげられる。運営では、グループのリーダーを高校生に務めてもらうことで積極的な討議を促した。結果としては、「幅広い年齢の方や他国の方がいらっしゃって、気づけないような考えを知ることができ楽しかったです」との感想や、日本人と外国人と一緒に最後の発表を行なうグループが多かったことなどから、一定の効果が出たとみられる。

また、今後の多文化共生への具体的な取組を模索していた浦河町役場にとっては北海道が地方の町村でこのようなイベントを開催したことが非常に参考になったようであり、本事業の意義が感じられる回となった。尚、日高地域のように急激に外国人が増える地域においては、多文化共生への取組に加えて、地域全体として在留資格や外国人受入制度、法律などへの知識も併せて向上させていくことが重要となるため、本地域においても共生と受入れの両輪で積極的に取り組んでいくことが期待される。

10. 十勝地域

1) 地域概況

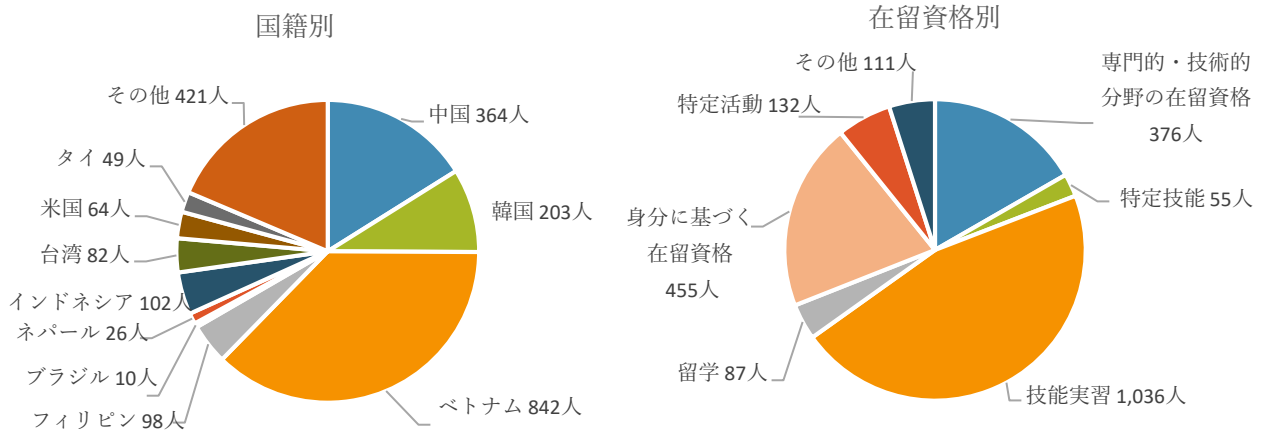
○地域の概要

総人口	349,547人(H25.3.31現在)
地域構成	1市16町2村
外国人数	2,261人(2020年6月末時点)
主な国籍	ベトナム、中国
主な在留資格	技能実習、技術・人文知識・国際業務、永住者



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計(2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インド ネシア	台湾	米国	タイ	その他
十勝地域総数	2,261人	364人	203人	842人	98人	10人	26人	102人	82人	64人	49人	421人
帯広市	884人	91人	141人	235人	44人	6人	21人	49人	38人	31人	8人	220人
河東郡音更町	144人	18人	9人	87人	8人	2人	-	2人	3人	1人	1人	13人
河東郡士幌町	92人	43人	2人	21人	1人	-	-	1人	-	2人	7人	15人
河東郡上士幌町	137人	44人	7人	58人	-	-	-	-	4人	3人	5人	16人
河東郡鹿追町	85人	26人	1人	28人	-	-	4人	5人	13人	1人	1人	6人
上川郡新得町	103人	2人	11人	6人	2人	-	-	6人	10人	3人	1人	62人
上川郡清水町	156人	50人	2人	51人	9人	1人	-	4人	4人	3人	9人	23人
河西郡芽室町	64人	7人	12人	24人	2人	-	-	8人	4人	2人	-	5人
河西郡中札内村	78人	7人	-	61人	2人	-	-	2人	-	3人	1人	2人
河西郡更別村	9人	1人	1人	2人	1人	-	1人	-	-	-	-	3人
広尾郡大樹町	116人	8人	2人	84人	11人	-	-	-	1人	1人	-	9人
広尾郡広尾町	49人	20人	1人	16人	1人	-	-	7人	2人	1人	-	1人
中川郡幕別町	115人	24人	6人	58人	1人	-	-	8人	-	6人	-	12人
中川郡池田町	21人	2人	-	7人	8人	-	-	-	-	2人	-	2人
中川郡豊頃町	50人	3人	-	33人	4人	-	-	3人	-	2人	-	5人
中川郡本別町	47人	5人	2人	2人	2人	1人	-	4人	-	1人	14人	16人
足寄郡足寄町	37人	5人	3人	16人	1人	-	-	2人	2人	-	-	8人
足寄郡陸別町	40人	2人	-	32人	-	-	-	-	1人	-	2人	3人
十勝郡浦幌町	34人	6人	3人	21人	1人	-	-	1人	-	2人	-	-

法務省「在留外国人統計（2020年6月末）」（下記同）

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
十勝地域総数	2,252人	376人	55人	1,036人	87人	455人	132人	111人
帯広市	884人	112人	7人	254人	87人	284人	40人	100人
河東郡音更町	144人	14人	1人	88人	-	25人	12人	4人
河東郡士幌町	92人	6人	7人	64人	-	7人	8人	0人
河東郡上士幌町	137人	45人	7人	65人	-	11人	5人	4人
河東郡鹿追町	85人	11人	0人	49人	-	5人	20人	0人
上川郡新得町	103人	57人	7人	8人	-	15人	16人	0人
上川郡清水町	156人	46人	3人	82人	-	17人	7人	1人
河西郡芽室町	64人	7人	0人	28人	-	23人	6人	0人
河西郡中札内村	78人	8人	6人	58人	-	5人	1人	0人
広尾郡大樹町	116人	16人	0人	84人	-	8人	8人	0人
広尾郡広尾町	49人	1人	2人	43人	-	3人	-	0人
中川郡幕別町	115人	13人	0人	83人	-	18人	1人	0人
中川郡池田町	21人	3人	1人	12人	-	4人	1人	0人
中川郡豊頃町	50人	3人	9人	29人	-	8人	1人	0人
中川郡本別町	47人	5人	1人	30人	-	7人	4人	0人
足寄郡足寄町	37人	10人	2人	19人	-	6人	-	0人
足寄郡陸別町	40人	3人	2人	32人	-	2人	1人	0人
十勝郡浦幌町	34人	16人	0人	8人	-	7人	1人	2人

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・十勝地域では在住外国人が帯広市に集中している。
- ・国籍別では、ベトナム人の割合が最も多く約 37%を占めている。次に多いのは中国人であり、ベトナム人と中国人の在留人数は十勝地域にいる外国人の半数を超えている。
- ・在留資格別では、「技能実習」が最も多く全体の 46%を占めている。また、「特定技能」の人数が全道で最も多い地域となっている。
- ・帯広市には日本語教室がある。また、とちかちフレンドシップという団体が十勝地方在住の外国人のための「とちかち国際人材交流会」という多文化共生のイベントも行っている。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	11月5日(木) 17:00~19:00
会場	とちかち館 丹頂の間(帯広市)
参加人数	10名(外国人2名、日本人8名)
テーマ	イベント企画

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所 属	人 数
1	ボランティア団体	1名
2	士幌町	1名
3	一般参加者	1名
4	JICA 北海道(帯広)	2名
5	北海道十勝総合振興局	2名
6	教育系団体	1名
7	協同組合	1名(うち外国人1名)
8	社会福祉系団体	1名(うち外国人1名)
	合 計	10名

- グループ討論の結果「外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベント企画を考えよう」
 - ・「いつも使う日本語も学べる日本語文化教室 in 帯広」
 - (浴衣の着方、お正月、かまくら作り、雪合戦など文化体験を通し日本語を学ぶイベント)
 - ・「十勝の5カ所で料理パーティー」
 - (料理などから十勝の地域ごとの違いを知り、キャンプ、踊り、花火などを楽しむイベント)

3) 結果

○アンケート (日本人参加者)

(回収 8 名/8 名)

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください (複数選択可)。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	5
2 外国人と接する機会が多いため	3
3 外国人との交流に興味がある	1
4 仕事上、勉強になると思ったため	5
5 その他	1

その他：今後仕事として取り組んでいくため



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか? (1つのみ選択可)。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	7
2 イメージできなかった	1
合計	8



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・様々な施策はもちろんです。受け入れ側の意識を上げる取組が欠かせないと思います。
 - ・文化や習慣のちがいを知り、寛容になること。そのためのとりくみ
 - ・技能実習生に的を絞った支援の取り組み
 - ・地域、その他関係機関の協力体制
 - ・市町村の窓口となる、行政の意識改革、向上からまずはお始めないと何も動かないかも…と感じる毎日です。ただ草の根的に興味のある人とチームを作ってミニ企画の数を打っていくことも大切なのかなと感じました
 - ・自治体の腰を上げること。外国人の声を丁寧にひろうこと。
- (原文通り記載)

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・グループワークで外国人の方の考えも知ることができて、参考になりました。
 - ・たいへん参考になりました。参加者の人数が少ないのが残念ですが、これが十勝地方の外国人材についての考えでしょうか。
 - ・帯広のみならず、十勝各町村における技能実習生の国、業種別の状況を調査して公表して欲しい (それをもとに取組を専員で考える)
- (原文通り記載)

○アンケート (外国人参加者)

(回収 2 名/2 名)

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください (複数選択可)。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	2
2 日本人と交流したいから	1
3 仕事で使えると思ったから	0
4 会社の人に誘われたから	0
5 その他	1



問2 どんなイベントがあったら参加したいと思いますか（複数選択可）。

回答		人数(人)
1	日本語を勉強できるイベント	1
2	日本の文化について勉強できるイベント	2
3	スポーツイベント	1
4	日本人と交流できるイベント	1
5	自分の国の文化を教えるイベント	1
6	その他	0



問3 今住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

日本の文化についてもっと勉強したいと思います。

《原文通り記載》

帯広地域では、JICA 帯広センターや十勝総合振興局の職員、地域おこし協力隊等が参加した。外国人は企業で働くベトナム人2名が参加。十勝地域の市町村職員の参加は見られなかった。全体的にはまだ住民の多文化共生への関心も低いとみられる。参加人数は少なかったものの、参加者達は、外国人参加者を中心に笑顔が見られる和やかな雰囲気の中、活発な意見交換を行っていた。ワークショップ終了後には、連絡先の交換や情報交換に盛り上がり、閉会後もほぼ全員が残り交流をする様子が見られた。このような場面は対面で行ってこそそのメリットであり、オンライン開催では難しい部分だ。

アンケートでは「草の根的に興味のある人とチームを作ってミニ企画の数を打っていくことも大切なのかなと感じました」とのコメントもあげられており、多文化共生への取組が広まっていくことを期待する。

1 1. 釧路地域

1) 地域概況

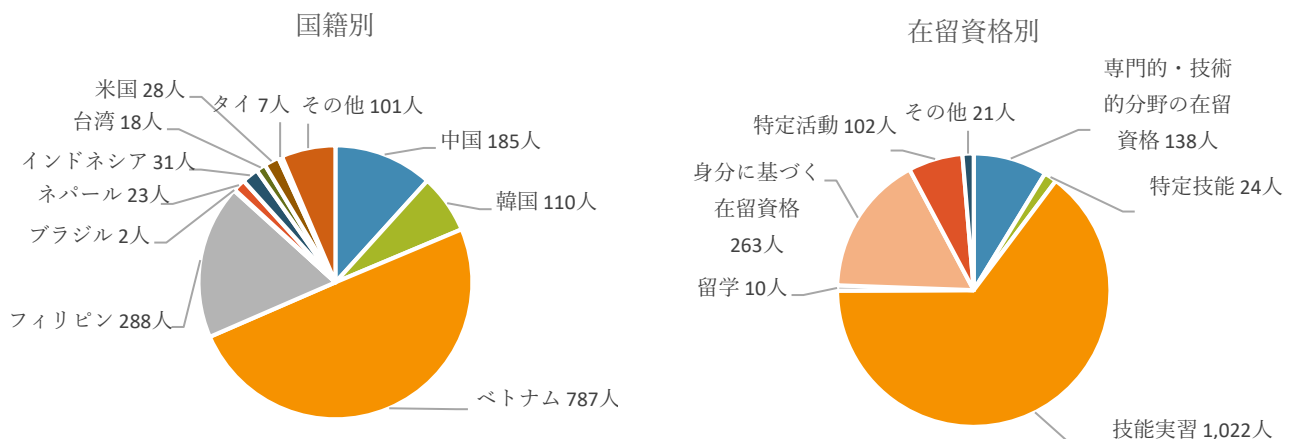
○地域の概要

総人口	248,282人 (H24.3 現在)
地域構成	1市6町1村
外国人数	1,580人 (2020年6月末時点)
主な国籍	ベトナム、中国、フィリピン、韓国
主な在留資格	技能実習、技術・人文知識・国際業務、特別永住者



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計 (2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	台湾	米国	タイ	その他
釧路地域総数	1,580人	185人	110人	787人	288人	2人	23人	31人	18人	28人	7人	101人
釧路市	975人	165人	80人	471人	95人	1人	19人	19人	18人	13人	6人	88人
厚岸郡厚岸町	159人	10人	-	103人	42人	-	-	-	-	2人	-	2人
釧路郡釧路町	68人	3人	10人	51人	1人	-	-	-	-	-	1人	2人
厚岸郡浜中町	82人	1人	1人	35人	34人	-	-	7人	-	1人	-	3人
阿寒郡鶴居村	35人	1人	1人	6人	22人	-	-	-	-	3人	-	2人
川上郡弟子屈町	61人	3人	4人	41人	4人	-	-	3人	-	4人	-	2人
川上郡標茶町	102人	2人	9人	80人	3人	-	4人	-	-	3人	-	1人
白糠郡白糠町	98人	-	5人	-	87人	1人	-	2人	-	2人	-	1人

法務省「在留外国人統計 (2020年6月末)」(下記同)

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
釧路地域総数	1,580人	138人	24人	1,022人	10人	263人	102人	21人
釧路市	975人	103人	20人	569人	9人	196人	61人	17人
釧路郡釧路町	68人	3人	-	44人	-	19人	-	2人
厚岸郡厚岸町	159人	3人	-	139人	-	5人	12人	-
厚岸郡浜中町	82人	10人	1人	57人	1人	1人	12人	-
川上郡標茶町	102人	8人	1人	78人	-	13人	2人	-
川上郡弟子屈町	61人	5人	1人	39人	-	13人	2人	1人
阿寒郡鶴居村	35人	2人	1人	23人	-	6人	3人	-
白糠郡白糠町	98人	4人	-	73人	-	10人	10人	1人

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・釧路地域では、外国人が釧路市に集中しており、国籍別では、ベトナム人の割合が最も多く約半数を占めている。また、フィリピン人の人数は石狩地域の次に多い。
- ・在留資格別では、「技能実習」が最も多く全体の65%を占めている。市町村別から見ると、釧路市の「特定技能」が全道で最も多い。
- ・釧路市が日本語教室を運営しているほか、多文化共生にも力を注いでいる。1995年から毎年大きな国際交流イベント「冬迎祭」を行い、釧路地域の市民と外国人の交流を図っている。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	11月4日(水) 17:00~19:00
会場	釧路市観光国際交流センター 視聴覚室
参加人数	36名(外国人10名、日本人26名)
テーマ	イベント企画

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所 属	人 数
1	小学校関係者	1名
2	サービス業系企業	2名
3	一般参加者	3名（うち外国人1名）
4	町内会	1名
5	釧路市	8名
6	国際交流の会	6名
7	採石業系企業	1名
8	商工会議所	1名
9	釧路市教育委員会	6名（うち外国人5名）
10	教会関係者	2名（うち外国人1名）
11	北海道教育大学釧路校	5名（うち外国人2名）
	合 計	36名

○グループ討論の結果「外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベント企画を考えよう」

- ・「コロナに負けるな!!健康グルメフェア」(各国のスパイス料理を食べ、身体を温め免疫力をあげる)
- ・「インターナショナルフードフェスティバル」(世界の料理を食べる)
- ・「多国籍チームのアイヌ文化体験サバイバルキャンプ」(火起こし対決、アイヌ語学習など)、他

3) 結果

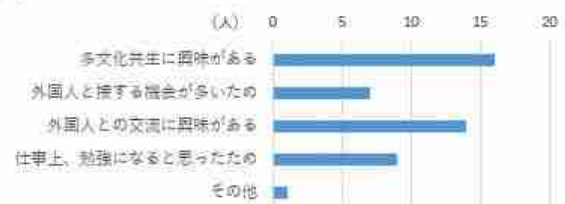
○アンケート（日本人参加者）

（回収 25名/25名）

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	16
2 外国人と接する機会が多いため	7
3 外国人との交流に興味がある	14
4 仕事上、勉強になると思ったため	9
5 その他	1

その他：海外人材紹介業、登録支援機関として



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか？（1つのみ選択可）。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	24
2 イメージできなかった	0
合計	24

※未回答1名



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・この様な取り組みを地域独自可能な限り多く取り組む必要を
- ・お互いを知ることが大切だと感じました。コミュニケーションを深める為にやさしい日本語も普及させる必要があると感じました
- ・外国人のニーズを知るとともに、互いに理解するためのイベントを数多く開催すること
- ・外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベントの情報を広く知らしめることも大切。言葉が伝わりにくくても、一市民としての外国人の方と共生（なかよく）していこうという気持ちが大事。
- ・今回の「ワークショップ」などのフォーラム、イベントを継続、増やしていく。
- ・全体像が見えないケースが多く、難しいテーマと思いますが、外国人の方を更に活やくできる様にしていればと。
- ・場づくり、ネットワークづくり、中核になる人（役割づくり）
- ・お互いに顔の見える交流が大切。どの組織が中心になって進めていくのが見えない。市役所or市民団体？お互いの国際団体とのつながりを作ることが大切かも。
- ・日本語研修会、食事を通じた交流
- ・交流イベントを持つ。
- ・お互いに友だちになることから始める！仲良くなることから！そのために交流できるイベントを催す！
- ・日本語をサポートする機会を増やすことが必要。
- ・日本語を教える機会を増やす。日本人と在留外国人がもっと交流できる場を増やす。
- ・訓練の在留外国人について、市民の理解を深めてもらうこと。
- ・あまり考えすぎないこと、外国の人が何を求めているのかを調査することが大切だと思う。

《原文通り記載》

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

- ・未来は皆んなが作る物。
- ・色々な国や職業の方と交流できてとても楽しかったです。ぜひまた参加したいです。
- ・参加した外国人にとって理解しやすい内容になるとよりよくなると思います。
- ・外国人の方、日本人の方、ランダムにチームになり、仕事をする事で心の距離も縮まる気がしました。
- ・北海道の参考事例はこれから取り入れていきたいです。当会は人材が不足し、これからのこのような取り組みができるかどうか課題となっています。まずは組織作りが基本startかもしれないです。
- ・時間が足りない感じでした。又開催していただきたい。
- ・外国語資料レジメや通訳をもっとできればより深い内容でできたのでは。日本語がわからないことで遠慮がみられた。
- ・グループワークの時間がもっとあれば良いと思いました。

《原文通り記載》

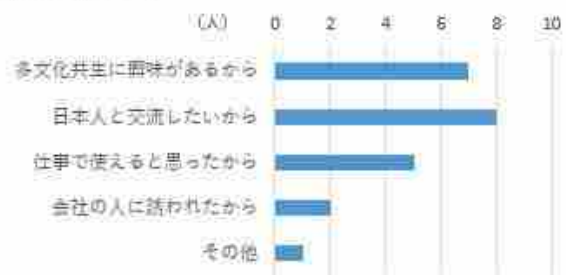
○アンケート（外国人参加者）

（回収 11名/11名）

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	7
2 日本人と交流したいから	8
3 仕事で使えると思ったから	6
4 会社の人に誘われたから	2
5 その他	1

その他：日本の方々と友達になりたい



問2 どんなイベントがあったら参加したいと思いますか。

回答	人数(人)
1 日本語を勉強できるイベント	6
2 日本の文化について勉強できるイベント	9
3 スポーツイベント	3
4 日本人と交流できるイベント	8
5 自分の国の文化を教えるイベント	6
6 その他	1

その他：crafts



問3 今住んでいる地域にしてほしいことがあれば教えてください。

- ・世界の文化祭りをしたい。
- ・看板や情報が多言語化、漢字にはルビを振って欲しい。あと「やさしい日本語」を普及して欲しい。
- ・Maybe more languages available in the powerpoint
- ・気軽に集まれる機会、場所を作ってほしい。

《原文通り記載》

開催地の釧路市はすでに在住外国人との交流事業も実施しており、多文化共生への関心が高く、今回のワークショップに関しても市が中心となって積極的な周知を行った。担当部署と担当者の日々の地域住民との連携・協力により、参加者数は対面では石狩地域に次ぐ36名となった。また、参加者内訳も、釧路市、国際交流団体、教育機関や民間企業、そして一般参加など幅広く、外国人はALT、北海道教育大学、キリスト教会などから様々な国籍の外国人が9名参加した。

外国人の参加者には日本語を話せない方も多かったが、同じグループの日本人が英語や「やさしい日本語」でサポートする姿が多々見られた。日本語を話せない外国人が参加した場合の対応というのは、本事業を運営する上でいくつかの地域から懸念された課題であるが、各自治体が運営をする場合には、すべての地域ですべての国籍の外国人に対して通訳者を用意することは難しく、今回の釧路のように参加者同士が英語や「やさしい日本語」、ジェスチャーや筆記などで助け合うことが対応策の一つであると考えられる。また、アンケートにあるように、資料の多言語化や漢字にルビを振るなど準備の段階で対応できる方法もあり、何より参加者自身が相手の立場を考えてこのような意見がでたことこそが本事業の成果といえる。

1 2. 根室地域

1) 地域概況

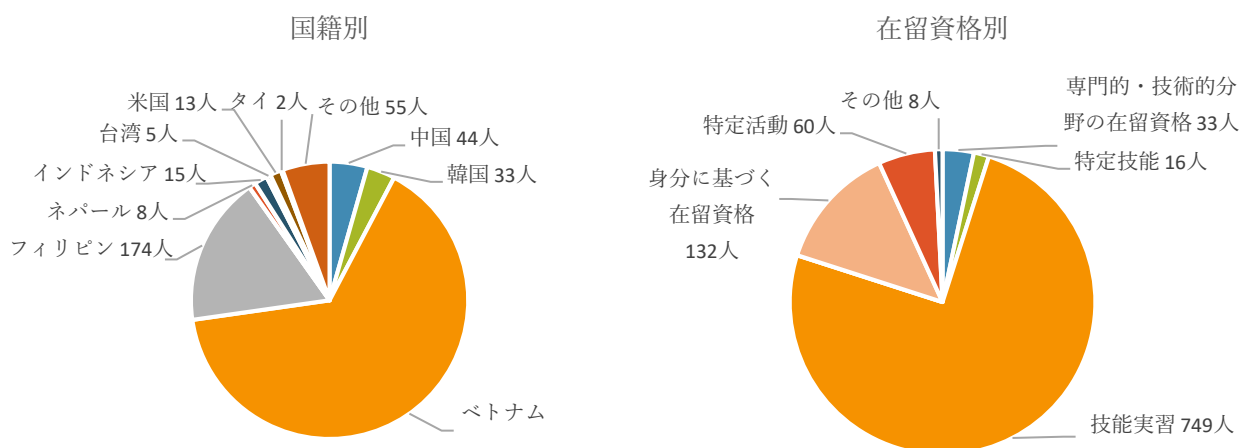
○地域の概要

総人口	76,621人 (H27.10.1現在)
地域構成	1市4町
外国人数	998人 (2020年6月末時点)
主な国籍	ベトナム、フィリピン
主な在留資格	技能実習



出所：北海道庁ホームページ

○地域に在住する外国人の特徴



法務省「在留外国人統計 (2020年6月末)」

市町村別 国籍別在留外国人

市区町村	総数	中国	韓国	ベトナム	フィリピン	ブラジル	ネパール	インドネシア	台湾	米国	タイ	その他
根室地域総数	998人	44人	33人	649人	174人	0人	8人	15人	5人	13人	2人	55人
根室市	326人	6人	5人	267人	11人	-	-	4人	-	2人	-	31人
標津郡中標津町	115人	12人	14人	35人	18人	-	6人	-	3人	6人	1人	20人
標津郡標津町	100人	-	2人	69人	27人	-	-	-	-	1人	1人	-
目梨郡羅臼町	38人	2人	4人	28人	3人	-	-	-	-	1人	-	-
野付郡別海町	419人	24人	8人	250人	115人	-	2人	11人	2人	3人	-	4人

法務省「在留外国人統計 (2020年6月末)」(下記同)

市町村別 在留資格別在留外国人

市区町村	総数	専門的・ 技術的分野 の在留資格	特定技能	技能実習	留学	身分に基づく 在留資格	特定活動	その他
根室地域総数	998人	33人	16人	749人	-	132人	60人	8人
根室市	326人	12人	-	236人	-	44人	32人	2人
野付郡別海町	419人	9人	13人	341人	-	30人	22人	4人
標津郡中標津町	115人	8人	2人	51人	-	48人	4人	2人
標津郡標津町	100人	3人	1人	93人	-	3人	-	-
目梨郡羅臼町	38人	1人	-	28人	-	7人	2人	-

※こちらの表では、総数が10以下の市町村は未表示としているため、総数に含まれておりませ

- ・根室地域では、別海町の外国人が最も多く全体の約42%を占めている。
- ・根室市では、市内の企業や団体に組織する「根室ベトナム交流協会」を設立（2019年4月）し、昨年度の北海道「外国人材地域サポート（モデル地域支援）促進事業」を活用し、今年度は文化庁「地域日本語教育スタートアッププログラム」によって地域日本語教室の開設に取り組んでいる。
- ・在留資格別では、「技能実習」が最も多く全体の75%を占めている。
- ・開催地の中標津町では、2021年4月に日本語学校が開校する予定であり、町、経済団体、企業が一体となって留学生の誘致に取り組んでいるところであり、外国人の受入や共生への関心が非常に高い時期に開催することができた。

2) 実施内容

○実施概要

実施日時	1月20日（水）18:30～20:30
会場	中標津町総合文化会館 しるべっと コミュニティホール
参加人数	17名（外国人3名、日本人14名）
テーマ	イベント企画

○ワークショップの様子



○参加者

No.	所属	人数
1	中標津町	4名
2	北海道根室振興局	2名
3	建設系企業	4名（うち外国人3名）
4	中標津町議会議員	1名
5	学校法人	3名
6	介護系企業	2名
7	一般参加者	1名
	合計	17名

○グループ討論の結果「外国人と日本人住民の交流を促進するためのイベント企画を考えよう」

- ・「にほんとベトナムのバンベアまつり（各国の料理、日本のゲーム体験、スポーツ、盆踊り体験等）
- ・「夏の一夜を共に過ごそう！祭り」（地域の特産物であるジャガイモと牛乳を使った料理を食べ、花火やキャンプファイヤーなどで交流する）
- ・「お祭り（異文化交流）ちながっちゃう」（昼は中標津ツアー、酪農体験、自然体験。夜は料理と踊りと歌で互いの文化を知り交流する）

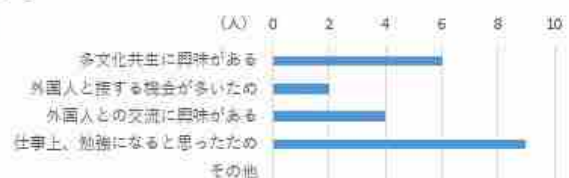
3) 結果

○アンケート（日本人参加者）

（回収 12名/14名）

問1 ワークショップに参加した理由をお聞かせください（複数選択可）。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味がある	6
2 外国人と接する機会が多いため	2
3 外国人との交流に興味がある	4
4 仕事上、勉強になると思ったため	9
5 その他	0



問2 外国人の受入環境の整備に向けた取り組みをイメージできましたか？（1つのみ選択可）。

回答	人数(人)
1 以前よりイメージできた	11
2 イメージできなかった	0
合計	11

※未回答1名



問3 今後、多文化共生を進めるためにどのような取り組みが必要だと感じますか。

- ・ひとりでも多くの町民に外国人住民との共生、多文化交流についての理解を広める為、小規模でもいいのでこの様なワークショップを継続に行うことが行政として必要と考えております。
- ・国際交流など進めていく上でキーパーソン（ひっぱり手）が重要だと知った。住民との距離を縮め、互いを理解していけるような企画が生まれると良いと思った。
- ・連絡のとれる協議会等の設立、交流事業の企画。
- ・それぞれの外国人の文化や特長を覚えてそれにあわせてイベントを考えたり、取組をする必要があると思いました。
- ・当社においても受け入れを考えている為、互いの文化等を理解する事が大切。
- ・コミュニティを地域につくることが必要。日本人と安心してかかわることができるなど。
- ・ネットワークづくり
- ・リーダーシップをとって進めるコア人材が必要であると思います。
- ・おしつける文化ではなく、お互いの国の情報を知り、理解し合える事が大切だと思います。

（原文通り記載）

問4 本日のご感想やご意見等があれば、ご記入ください。

・異文化交流がどういふものか、いろいろな市町の取り組みがわかり、勉強になりました。本日はありがとうございました。
 ・楽しく参加できた。
 ・是非、次回も開催してほしい。
 ・グループビンゴの中に、ベトナムの方がいらっしゃいました。日本語をかたことでお話のできたので、理解する努力ができたと思います。
 (原文通り記載)

○アンケート (外国人参加者)

(回収 3 名/3 名)

問1 ワークショップに参加した理由を教えてください (いくつでも選べる)。

回答	人数(人)
1 多文化共生に興味があるから	0
2 日本人と交流したいから	1
3 仕事で使えると思ったから	0
4 会社の人に誘われたから	2
5 その他	0



問2 どんなイベントがあったら参加したいと思いますか (いくつでも選べる)。

回答	人数(人)
1 日本語を勉強できるイベント	1
2 日本の文化について勉強できるイベント	1
3 スポーツイベント	1
4 日本人と交流できるイベント	0
5 自分の国の文化を教えるイベント	0
6 その他	0



開催地の中標津町では 2021 年 4 月に日本語学校が開校する予定であり、今回のワークショップにも日本語学校開校に携わる関係者の方々の参加が多くみられた。当日は、町のラジオでイベントの告知が行われたり、会場に新聞社の取材が入ったり、会場の雰囲気としても、講師への質問など非常に積極性を感じられるワークショップとなった。日本語学校開校に向けた取り組みの中、中標津町にとっても良い時期に行われたようである。このように、各地域の状況などを把握したうえで時期と開催場所を検討することも効果的に事業を運営する上での重要なポイントだといえる。

グループ討議では、特産の牛乳やジャガイモを使ったイベントが企画され、それについて外国人と日本人が会話をするなど、地域の良さを在住する外国人に知ってもらいきっかけにもなったようである。

11 2021年(令和3年)1月26日(火曜日)

外国人の地域交流で意見

中標津でセミナー・相談会

外国人の交流イベントを考えたワークショップ(19日)

【中標津】海沿いの老舗旅館「中標津」で、地元の暮らしを外国人に紹介する「外国人専用セミナー・相談会」が町総合文化会館で開かれた。ワークショップは市内14の地域で開催され、19日の開催会場は中標津町の総合文化会館。講師は、中標津町に在住する外国人5人。昨年10月に中標津町を訪れた外国人が、中標津町の魅力を伝えるイベントとして企画された。ワークショップでは、多岐な意見が出された。講師の一人は「中標津町の魅力を外国人に伝えるには、外国人が地域で生活できるようにサポートする必要がある」と話した。ワークショップは、中標津町の魅力を外国人に伝えるための重要なポイントだといえる。

【中標津】中標津町総合文化会館で、外国人の交流イベントを考えたワークショップ(19日)が開かれた。講師は、中標津町に在住する外国人5人。昨年10月に中標津町を訪れた外国人が、中標津町の魅力を伝えるイベントとして企画された。ワークショップでは、多岐な意見が出された。講師の一人は「中標津町の魅力を外国人に伝えるには、外国人が地域で生活できるようにサポートする必要がある」と話した。ワークショップは、中標津町の魅力を外国人に伝えるための重要なポイントだといえる。

【中標津】中標津町総合文化会館で、外国人の交流イベントを考えたワークショップ(19日)が開かれた。講師は、中標津町に在住する外国人5人。昨年10月に中標津町を訪れた外国人が、中標津町の魅力を伝えるイベントとして企画された。ワークショップでは、多岐な意見が出された。講師の一人は「中標津町の魅力を外国人に伝えるには、外国人が地域で生活できるようにサポートする必要がある」と話した。ワークショップは、中標津町の魅力を外国人に伝えるための重要なポイントだといえる。

本事業のまとめ及び今後の展望

◇ 本事業のまとめ

本事業では、全道 14 カ所にて「地域住民と外国人との多文化共生ワークショップ」が開催され、道内の市町村職員や関係機関、国際交流団体、教育機関、事業者、一般市民、そして在住外国人の計 289 名が参加した。ワークショップは外国人の受入環境の整備を促進することを目的として、前半の事例紹介セミナーと、後半のグループワークの 2 部構成で実施した。事例紹介セミナーでは、昨年度の「外国人材地域サポート（モデル地域支援）促進事業」で北海道が支援を行った 4 つのモデル地域の課題や成果、外国人の受入環境整備に必要な取り組みについて紹介した。またグループワークでは、地域ごとに「日本語教育」または「イベント企画」のどちらかにテーマを設定し参加者が主体となって外国人との多文化共生を考え、体験できる実践的な内容とした。

ワークショップ終了後のアンケートでは、96%以上の参加者が「外国人の受入環境の整備に向けて具体的な取組のイメージが持てた」と回答し、各地方自治体によるといくつかの地域では今後外国人との多文化共生に向けた具体的な取り組みについて検討を始めているようである。

本事業のアウトプットとアウトカムの詳細については下記の表を参照。

地 域	開催地/開催方法	アウトプット	アウトカム
石狩地域	千歳市	43 名	97%
渡島地域	八雲町	10 名	100%
檜山地域	江差町	8 名	100%
後志地域	オンライン	40 名	94%
空知・上川・胆振地域	オンライン	34 名	95%
留萌地域	天塩町	22 名	100%
宗谷地域	稚内市	23 名	94%
オホーツク地域	オンライン	13 名	89%
日高地域	浦河町	33 名	100%
十勝地域	帯広市	10 名	87%
釧路地域	釧路市	36 名	100%
根室地域	中標津町	17 名	100%
合計		289 名	96%

◇ 今後の展望

昨年度の同事業はモデル地域に立候補した中から選ばれた4地域への支援だったのに対し、今年度は北海道庁と相談のうえ事務局で選定した地域での開催であった。開催にあたって開催地域やその近隣地域の自治体に話を聞く中で、外国人の受入環境整備についての取り組み方は地域によって様々であり、さらに優先順位も地域ごとに異なることがわかった。既に多文化共生の基礎や組織が存在し積極的に動いている地域がある一方で、外国人受入環境整備への取組が必要であることは認識しているが具体的に取組むには情報や方法がわからないため模索しているという地域もあった。実際179もの市町村がある北海道において、全地域が一斉に外国人との多文化共生を最優先事項として取組むことは難しいが、外国人の数が増え続け今後も増えていくと予想される北海道において、各地域がこの課題に取り組む時期がくることは否めず、それぞれの地域がいざ取組を始めるときにモデルとなるような地域や情報が道内に蓄積されていれば、より効果的で円滑に取組を始められると考えられる。そのために、北海道における今後の展開として以下を提案する。

1. 地域の外国人を知る機会の提供

ワークショップのセミナーでも各地に伝え続けてきたことであるが、まず地域として外国人の受入環境の整備に取り組むために行ってほしいことは、「地域の外国人について知る」ということである。

その地域にどの国籍の外国人がどの在留資格でどんな目的で来日しているのかや、現在起きている課題を把握することで、その地域の外国人の一般的な日本語能力や日本文化への理解度などを知ることができ、地域においてどのような取組や支援が必要なのかを検討することができる。

また昨年の支援レポートにも記載したように、外国人の受入環境整備の取組は地域の関係者間の連携が必要である。

そのためには今回のようなセミナーを各地で開催し意識啓発を促すこと、さらに各地域のアンケートの回答にもあるように地域住民一人ひとりが実際に地域の外国人と交流できる場を提供することで統計だけではわからない地域の外国人の状況や考え方を知ることができる点で、ワークショップも効果的である。

2. 外国人受入環境整備を促進するキーマンの発掘

昨年の支援レポートにも記載し今回の参加者によるアンケートの回答にもあった通り、外国人との多文化共生や受入環境を整備する取組を進めていくためには、その地域にキーマンとなる人材が必要となる。今回のワークショップの開催にあたっては、中心となってイベントの周知や関係者への情報配信を行った担当者がいたお陰でより多くの方にイベントの案内を届けることができた地域があった。グループワークでも、各グループにリーダーがいたからこそ、活発な話し合いを促すことができた。

キーマンは外部の人間ではなく、その地域で外国人や多文化共生に関心を持っている人こそがふさわしいと考えられ、キーマンの発掘を地域住民の中から行っていくことも必要である。

各地域の結果にも記述の通り、ワークショップへの参加によって他地域の取組を知ることに関心を持ったり、外国人と交流を持つことを楽しいと感じる地域住民が各地におり、ワークショップ

プの開催は地域に潜在するキーマンとなり得る人材の発掘の役割も担うことができる点でも継続して開催されていく必要がある。

3. キーマンの養成、そして交流の機会の創出

今回のワークショップは他地域の取組に触れ、グループワークを通して地域における外国人の受入環境整備への取組を感じたり考えたりするきっかけとなるようなイベントであった。

ただ、開催地域の中には既に多文化共生の基礎や組織が存在し積極的に動いている地域や人材がいる地域もあり、今後はそのような地域や人材に対する、より具体的で専門的な情報の提供も必要であると考えられる。

内容としては、外国人に関わる在留資格や受入れ状況等についての適切な知識や見識を身につけられるような研修や、今回のアンケートにも「初めて聞いた」「勉強になった」という回答があったように他地域での取組について担当者同士が情報や意見を交換する機会の提供である。

なお今年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、一部のワークショップを対面ではなくオンラインで開催したが、オンラインの「どの地域からも」「気軽に参加できる」メリットを活かして、広い北海道において今後も内容や状況に応じて活用していくことが望まれる。

昨年度の事業では、4つのモデル地域での外国人支援メニューを企画・実施し、本年度はそれらの地域の事例を道内14地域で普及し、さらに各地域で受入環境整備に向けてやるべきことについて考えて話し合う場を設けた。これまで本事業に参加した自治体においては、ワークショップで学んだことを基にさらにそれぞれの地域で外国人と共生し、外国人に選ばれる地域になるためには何ができるか継続的に考え対策を取っていただきたい。

道内各地の地理的な位置（内陸型・沿岸部型）や町の規模（都市型・地方型・リゾート型）、産業構造、教育機関の有無、外国人受入れの歴史等の特徴が異なっており、在住外国人の在留資格や日本語能力、国籍、宗教や課題の種類も様々であるため、各自治体がそれぞれの地域性を把握した上で、それに適した対策を施すことが重要である。また、環境整備というのはすぐに結果に表れるものではなく、特に多文化共生への意識啓発は継続的に実施することにこそ意義があるため、今後も北海道でこのような取組が継続的に実施されることを希望する。